

あなたの意識です

第三卷

一三三、会員番号1082さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

毎日、毎日、狂った人達、苦しい心の人達を、私は診てきました。それが私の仕事です。なぜ、こんなに苦しいのだろうか。なぜ、こんなに狂っているのだろうか。なぜ、こんなに…、そんな思いばかりを出してきました。

私は、私を知らなかったからです。私の心の中にも、彼等と同じ苦しみ、彼等と同じ狂った思いがありました。

私の中には、それ以上の思いがあります。

自分の心の声を、もっと一生懸命聞いてやりたい、私は、そのように思います。

***さん、田池留吉にあなたの心を向けてみてください。

異語。

心の中に溢れるような思いを感じます。苦しくて、苦しくて、苦しくて、どうしようもない心の叫びを感じます。田池留吉、あなたにこの思いを、もつと、もつと素直にさらけ出したいです。

「私達は、それをしてくれとこの心の中から、叫んできました。」

間違い続けてきた、そんな自分をようやく、私も心に感じ始めてきています。訳もなく、涙が流れます。自分の心を押し留めてきたことを感じます。

私の心は、求めています。本当の温もりに出会うことを求めています。溢れる涙は、少し、私自身の心に触れたからでしょう。

込み上げる思いとともに流れていく涙、言葉になりません。

田池留吉、今、心を向けています。

はい、田池留吉は、そんな私を、じっと見つめてくれてる。

「あなたは、あなたの心を自分で広げていくんです。自分で自分を語っていきなさい。」
そんな思いが伝わってきます。

異語。

***さん、今世のあなたは、もう少し、自分の心に響くようになってくるでしょう。どうぞ、素直な思いで、母を思い、田池留吉を思う瞑想を続けていってください。

焦らずに気張らずに、淡々とそんな時間を作り、心に向けるようにしていってください。心の中に響いてくる思いが、今以上に、きつとあるはずですよ。

奥さんと異語を交わし、互いに瞑想される時間を持たれるのもいいと思います。夫と妻という立場を離れ、自分に目覚めていこうとする仲間として、どうぞ、ともに心に向けていってください。

一三四、会員番号1102さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

心の中に他力の世界をしつかりと抱えています。私は、自分の中を、まだまだしつかりと見ておりません。なぜならば、母親の反省が進んでいないからです。母を思う時、無条件に嬉しいという思いが湧いてきません。

まだまだ、母に対して、自分の中が、くすぶっているのを感じます。

そんな私の中にあるのは、他力の心です。他力の心が、私の前に立ち塞がっています。

母の意識に、しっかりと心が向けられないのは、母を裏切ってきたからです。母の意識を裏切ってきたからです。

それは、取りも直さず、自分を裏切ったこととなります。自分を裏切り、自分を見捨て、私は、他力の神々に心を向けてまいりました。

そのことを、まだ私自身、はつきりと自覚しておりません。

色々な書物を読みました。宗教の世界、精神世界に心を向けてきました。だけど、私の中にはつきりとしたものが、樹立していません。

私は、はつきりと言って、愛が分からないです。

愛を教えてください。愛が知りたいです。私を感じている愛の世界は、本当の愛の世界ではない、私は、自分をそのように、今、語らせていただきます。

***さん、田池留吉のほうに、心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、心に歯向かう思いを感じます。田池留吉に対して、歯向かってきた私の中のとくさんの意識を感じます。心の中が、まだまだ見れていません。こんなに鋭い思いで、田池留吉に向かっていたのか、私は、今、自分の心を語るにあたって、驚いています。

凄まじい勢いで、田池留吉という意識に向かっている、ああこれこそ、私が培ってきた心の世界です。すなわち、それが私でした。

この私を、まだ私自身、はつきりと分かっているわけではない。だから、田池留吉と、素直にそう呼べない。田池留吉の目をしっかりと見ることができない。これが、私の現実でございます。

異語。

どうでしょうか。私は、あなたに思いを向け、あなたの意識を、言葉で表現させていただけでした。もちろん、波動を感じてのことです。

このことを、参考にしていってください。ぜひ、参考にしていってください。ぜひ、自分の心を見ることを実践して、そして、瞑想をしていってください。

一三五、会員番号1726さんの意識

****さん、あなたの心を語ってみてください。

心の中には、まだまだしっかりと蓋をしている部分がありますが、しかし、私の中から、何か叫んでいるのを感じます。

自分の中に、大きな重い蓋があり、それをどうにかしてくれと、私の中が叫んでいます。心の中の私を、感じていくことをしていきたいです。私は、近頃、そのように思っています。頭でとらえてきた学びでした。心で感じるのが、私には、今ひとつよく分からなかったです。しかし、私の中は、何かが動いているような気がします。まだまだ、私は、自分の頭を信じていますが、そして、それが私の心癖ですが、その思いが、ほんの少し薄らいできたことを感じます。

****さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

心を素直に向けなさい、向けてごらん。恐がらずに向けごらん。そんな思いが伝わってきます。たくさんの私が、田池留吉を待っていたことを感じます。私の中から、今にも飛び出してきそうな思いがたくさんあります。私は、それを必死で抑えてきました。出て来い、出て来いと思いつながら、片方で、必死で抑えていた自分がありました。

自分の中を素直に語っていけばよかったなのに、私は、ずっと、ずっと、自分を押し留めてきました。田池留吉に、心に向けることは、恐怖でした。今はどうかと思えば、今は、何だか少しだけほっとしています。

ただ、自分の中の大きな壁を感じます。こんなにも大きな壁を自分の中に作ってきたことを感じます。

頭を外して、自分を感じていくことが、少し体験できたような気がします。

異語。

****さん、異語で語っていますか。異語で、自分の思いを語っていただく下さい。口

を動かし、どんどん自分の中を吐き出していってください。気負わずに淡々と、日々の生活の中で、心を見ること、瞑想を続けていくこと、繰り返しやっていってください。

優しいあなたに会うっていってください。たくさんの方が待っていることを感じられる、優しいあなたになっていってください。

この学びに出会えてよかったなあ、ずっと続けてきてよかったなあ、たくさんの方々と語り合っていてください。

心がふわっと広がっていきます。そうしたら、また、その優しい思いを自分に向ける、そうやっていけば、あなたの中は、段々と緩んでいくと思います。

一三六、会員番号1115さんの意識

***さん、進みたいのに進めないあなたの今を語ってみてください。
なぜなのでしょうか。

自分の心を見てきました。見てきたつもりです。

しかし、パワーを求めてきたこの思いが、まだまだすごいエネルギーの塊となって、私の中に蓄えられています。

自分の中を、もっと、もっと深く見ていきたい。私は、これだけ学びを求めてきた。母を求めてきた。それなのに、なぜ、私の歩みは、はかばかしくないのか。私は、自分をじれつたく感じています。

何よりも、何よりも、私は、この学びを求めてきたはずだった。その思いは、確かに、自分の中で感じます。

なのに、どうして、どうして…、それが私には分かりませんでした。

ああしかし、今、パワーを求めてきた思いの強さを心で感じています。

私は、やはり、自分に甘かったです。これほど強く、パワーを求めてきたとは、思いもしませんでした。

心を見てきたつもりです。ああでも、今、自分を語る時、甘い、甘いと出てきます。すごいエネルギーで、パワーを欲してきました。そんな自分を感じます。

***さん、田池留吉を心で呼んでみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、お前になど負けるものか。そんな思いが、心から突き上がってきます。田池留吉の優しさに屈しない、どこまでも、どこまでも、そんな私があることを感じます。

これが私の作ってきた他力の世界です。すごいエネルギーです。

だからこそ、私は、今世、生まれてきて、一番自分を見やすい環境を選んできたのですね。

はい、田池留吉。それでも、あなたは、「あなたにも、ゼロ歳の時があつたでしょう。そんなあなたの心を思い出しなさい」と伝えてくれます。

どれだけ歯向かおうが、どれだけ刃を突き刺そうが、あなたは、それにビクともしません。ただただ、あなたは、「自分を見つめていきなさい」。そう、私に伝えてくれます。

異語。

***さん、パワーを求めてきたあなたの思い、苦しかったですね。

パワーを求める思い、苦しかったです。今、あなたの心がそう答えています。

ただただ苦しかった…。苦しかったよ、お母さん…。苦しかった…。お母さん、お母さん、

お母さん…。

あなたの心は、お母さんと呼んでいます。しっかりと母に向けて、瞑想をしていってください。心に感じる優しい、優しい、母の波動、その中にあなた自身を託していくしか、あなたには、その道しかないことを知っていつてください。

パワーを求めてきた心は、苦しかった…。

素直に、そう言っているあなたの心、今、感じます。

一三七、会員番号1722さんの意識

***さん、心を開いて、思いを語ってみてください。

心の中にたくさんのお思いが詰まっています。母に対して、言いたいことが、たくさんあります。叫び出したい思いも感じます。それを、抑えているのは私です。叫び出したい私と、抑えている私、私の中が苦しんでいます。心を開いて、思いを語りたい。でも、その一歩を踏み出すことができません。

自分を守っている私を感じます。何を守っているのか、何を恐れているのか分からない。だけれど、自分の心の扉を開くことを躊躇しています。

***さん、異語で語りましょう。

異語。

私は、***です。お母さん、苦しかったです。お母さん、私の思いを語ります。私の思いを語ります。異語で語ります。これから、私は、自分の思いを異語で語ります。お母さん、私の思いを聞いてください。

異語……。

母に思いを語ると、「私の中にもあなたと同じ苦しい思いがあるのです」。

母の意識は、そのように応えてくれます。

肉を持つ母の意識は、そのように応えてくれます。

お母さん、あなたとともに、学んでいきたいです。素直になりたいです。

あなたから、「心を開きなさい。開いて自分を語っていきなさい」。そのように再三促しを

受けました。私は、素直でありませんでした。あなたの言うことに対して、私は、素直になれなかった。その心を見てまいります。

母親などに私の思いが分かってたまるものか。私は、何度も、何度も、母を殺してきた。苦しい中を生きてきた。母なしでやってやる。こんな思いをひた隠しにしております。

お母さん…、お母さん…。もっと真剣に反省をしております。瞑想をしております。

異語。

一三八、会員番号1032さんの意識

****さん、心を語ってみてください。

自分の心を感じるものすべてを、私自身が遮ってきました。心を感じたことを、そのまま、私の中に戻していけばよかったです。

素直になって、ただただお母さんの思いとともに、私の中へ戻していけばよかった。それが私には、ずっと、ずっとできませんでした。

何度も言われてきました。頭を過信している私だと、もう何度も言われてきました。それは、私の心癖でした。

自分の前に、あまりにも偉くそびえ立つ自分を感じます。

本当は、そんな自分を崩していきたいと思つて一生懸命にやってきたつもりです。それが肉、それが頭でした。

今、自分を思う時、本当に自分を導いていくのは、自分しかないと感じます。何がどうあつても、私には、私しかいなかったんです。

大切なことを、私は、母から教えてもらっていたのだと、今、素直に思える私があります。

***さん、田池留吉に心に向けてみてください。

異語。

すべてを知り尽くした上で、田池留吉に心向けなさい、そう呼びかける思いに、私は、素

直ではありませんでした。

お前は、すべてを知り尽くしている。その上で、心を向けよと言ってくる。そうやって、私の中には、鋭く跳ね返してきました。冷たい心で、撥ね付けていました。

すべてを知り尽くした上で、それでも心を向けなさいと言ってくれたのは、優しさでした。その優しさを私は、素直に受け入れることができませんでした。

こんな私だった。こんな私でした。田池留吉の上に立つて、母の意識を見下ろしていた自分の意識の世界でした。本当に申し訳ありません。

異語。

一から真剣に学んでいこうと思われて、申し込みをされたというあなたの思いを感じ、よかったですと思います。

あなたも、その心で感じておられる通り、あなたのこれからの肉の時間の中で、あなたができることは、自分の心を振り返る、振り返って自分の愚かさを確認していくことだけです。できる限りのことを、自分にしていってください。

優しいあなたを、たくさんのあなたが待っています。

本当の優しさを、自分に向けていけるような時間を、これから淡々と積み重ねていってください。

何はなくてもこの道がある。何はなくても、私にはこの道がある。そのようにあなたも心で感じ、力まずに、しかし、力強い一步を踏み出していってください。

一三九、会員番号1612さんの意識

***さん、心を語ってみてください。

自分を大切にしていこうと思っています。母から、この肉体をいただいた私は、自分を大切にしていこう、今、そのように思っています。

自分を見つめていくことが、自分を幸せにしていく、私は、そのことを教えていただきました。自分を見つめていくなんて、そんなこと初めて聞きました。

優しい思いを感じました。自分を見つめていきなさい、優しい思いを感じながら、私は、自分を思いました。

自分を大切にしていこう、自分に言ってやれる大きな意味のある言葉だと私は思っています。母の反省も、田池留吉に向ける瞑想も、まだ自分の中で、きちんとできているとは言いがたいです。だけど、私は、そこに私が求めていたものがある、そう感じています。

***さん、お母さんを思い、田池留吉を思ってみてください。

異語。

母の優しき、母の思い、それを、私は、自分の中に感じながら、生まれてきたのですね。今、その思いを、心を感じていこうとしています。

お母さん、田池留吉……。お母さんの心が伝えてくれました。心の中に、その思いを感じます。

この思いがあれば、何にも要らない。この中であなたに託していた頃の私を、少しずつ思い出してまいります。

異語。

***さん、学びの時間が短いあなたですが、正しい手順に従って、淡々と学んでいくてください。

早寝早起き、丹田呼吸、半身浴の励行、暴飲暴食を避けるという、日常生活の基本から、正しい瞑想に至るまで、手順を踏んでいけば、道は、曲がることはありません。

くれぐれも我流で進めないでください。きちんと手順に従って学んでいってください。そうすれば、あなたの心の中に、母の思いが、必ず響いてきます。その思いとともに、恐れずに自分の中を、しっかりと受け止めていってください。

狂ってきたあなたの叫びを、心で受け止めるためには、母の温もりを思い起こすこと、それが絶対に必要です。

母の温もりが、自分の中で感じられるようになれば、どんどん学びの中へ進んでいってください。苦しんできた自分を、もっと知っていってください。

ただし、大切なことは、正しい手順に従っていくことです。

手順通りに学んでいけば、あなたの中に、本当の優しさが蘇ってきます。その思いを、また自分の中に向けていくことを、淡々と繰り返し行ってください。

一四〇、会員番号1514さんの意識

***さん、心を見えていますか。

自分の心を見ることが、私には、今ひとつよく分かりません。

心を見ていっても、私は、あるところで、ストップしてしまいます。その前で私は、立ちつくしてしまうんです。

これは、なぜかなあ、何かなあ、そう自分の中で思います。しかし、私には、まだ分かりません。自分の心の中には、色々な思いが湧いて出てくるのは感じます。

ほとほと嫌になるときがあります。

これほど下らない思いを、私は、出しているのかと思う時、本当に、自分ってつまらない人間だなあと思うてしまいます。自分に嫌気が差すことが多いです。

こんな私の心の見方が間違っているのかもしれない。

それよりも、最初に語ったように、自分の中で突き当たってしまう、それが何かということを、私自身が知っていかねければならない。それが、自分の心を見ることがかなあ、今語りな

がら、そのように感じます。

異語。

***さん、あなたの心の中にも、あなたが過去から作ってきた他力の世界がしっかりとあります。他力の世界です。それが、あなたの心の中に、壁となって立ち塞がっています。今、その思いを少し聞いてみましょう。

異語。

心を見て何になる。お前の幸せは、心を見ても分かるはずはない。それよりも、我らに心を向けよ。お前は、ずっと求めてきた世界、これこそ、お前のパラダイス。

心の中にある思いは、我は正しい、我の言うことを聞け、我は一番。

この思いが、お前の心の中にしつかりとある。

この心の中を崩せるものなら崩してみろ。お前が、望んできた世界だ。お前自身が崩れていくぞ。

あなたの中は、このように語っています。

たくさんの方々を奉ってきた世界を、そのまま引きずり、あなたは今生生まれてきました。どうぞ、その自分の現実を、もっとしっかりと見ていってください。生半可な思いで、この学びはできないことを知っていってください。

一四一、会員番号1647さんの意識

***さん、瞑想中に、大きなあくびが出るとのこと、あなたのそのあくびに思いを向けてみてください。

心の冷たさを感じてください。あなたの中にいる私です。私達に、もっと思いを向けてみてください。優しい思いを向けていってください。

あなたの心は冷たいです。私達を思っていない。あなたの思うのは、自分のことだけです。私達を思っていない。私達の存在に気付いてください。

あなたに、その肉体を通して伝えていきます。

心を向けてください。もっと、もっと心を向けてください。

優しい思いを向けてください。

***さん、お分かりでしょうか。たくさん苦しい意識達が、あなたの中にいる。それは、あなたも、もう知識では充分にあると思います。

しかし、あなた自身が語ったように、あなたの心から出る思い、それは冷たい思いなんです。なぜだか分かりますか。

あなたは、他力の反省を、しつかりとしていないからです。他力に使ってきた心を、まだまだしつかりと掘り下げていない。その中で使ってきた心が、本当に、どれだけの間違いであったのか、自分に懺悔ができていません。だから、あなたの中から流れる思いは、優しさに欠けているんです。

本当は、あなたも、何となく、そうじゃないかなあと思っているはずですが…。

異語。

****さん、どうぞ、田池留吉に思いを向けてみてください。

異語。

田池留吉、心の中に、私は凄まじいエネルギーを感じます。田池留吉に心に向けた時、真っ黒な、真っ黒な自分の世界を感じます。

私の中には、まだまだすごいエネルギーが、しつかりと残っています。

たくさんの間違いを繰り返してきた。その思いが、私の中にまだまだ残っています。今、田池留吉に心に向けた時、そう、言葉で言えば、暗黒の世界を心に感じます。

一四二、会員番号1007さんの意識

****さん、対人恐怖症、人間不信だと思っているあなたの心を語ってみてください。

私の心の中には、恐怖の思いが大きく広がっています。自分の心を閉ざして生きてきました。

すべてに恐怖してきた体験があります。とても恐ろしい体験があります。

ああ、私は、過去において、何度も、何度も神を求めては、神に裏切られてきた。肉体を切り刻まれた思いを、心の中に、しっかりと、とらえています。恐怖心が、とても強いのです。

だから、私は、自分を閉ざして、閉ざしてきました。心の中に、なるべく入れないようにしてきました。

入れないようにしてきたけれど、私の中は、色々なものを感じてしまいます。だから、自分の中がとても、苦しいです。

心を感じたものを、どのようにしていけばいいのか。ストレートに出せば、私は、またあの恐怖の中に、この身を投げうつてしまう。もうあんな恐怖は嫌だ、嫌だ。

そうやって、私は、自分を閉ざしてきた。だから、心の中に溜め込む一方です。苦しくて、苦しくてたまりません。

自分の中のこの恐怖の思いを、何とかしなければ、私は、ますます、自分の中に閉じこもってしまいます。

異語。

***さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。あなたが感じた温もりのほうに、心を向けてみてください。

異語。

私は、田池留吉です。

***さん、どうぞ、ご自分の心をご自分の言葉で語ってみてください。自分の言葉で語るとは、あなたの心を、私のほうに向けて、素直に向けて、その口を動かすのです。ただ、ただ、それをやっていってください。

瞑想をする時間の中で、自分の思いを自分の言葉で語る、口を動かして音を出す、それを続けていってください。

そして、あなたの中にある、ゼロ歳の時の思いを思い出してください。

ゼロ歳です。

お母さんに抱かれていた時です。

ゼロ歳の時の思いを思い出しながら、ただ、あなたの口を動かしていってください。まず、そこからです。

一四三、会員番号1446さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

はい、母の反省を通し、他力の反省を通し、心を見てきたつもりです。

ああしかし、私も、つもりの上にもつれが重なって、自分の中は、あまり変わっていないことを感じます。

たくさんの反省をし、たくさんの言葉を出し、心も本当に色々と感じてきました。今も心に響いてくるものがあります。

それでも、私の根本は肉です。肉の思い、肉を基盤とする思いが、これほど強く自分を縛ってきた、そう感じます。

だからこそ、私は、今世の環境を選び、あちらからも、こちらからも、凄まじいエネルギーを感じてきた。このことは、もう私に、痛いほど響いてきます。

なぜ敏感な肉を持つてきたのか。

自分が培ってきた意識の世界のすごさを、愚かな肉を通して、何としても知っていききたい

私の思いがあつたからです。

この自分が培ってきた世界を転回していく難しさを、感じています。

本当に、そうでした。

少し感じては、自分はやってきた、できている、我を認めよと、そんなちっぽけな中で、やってきた自分を振り返っています。

そんな愚かなことを繰り返しやってきても、私は、それでも嬉しいと感じるんです。

だからこそ、私も、本当の自分を知っていかうとする思いが強いんだ、そのことを感じ、それが嬉しいと心に響いてきます。

何度転生するか分かりませんが、今世を大切にしていこう、今、そう思っています。

異語。

一四四、会員番号1687さんの意識

***さん、心を語ってみてください。

私の中のエネルギーを感じます。他力のパワーを求めてきた私の中はすごいです。この思いで、ずっと存在してきました。

今世のあなたに、私は、自分の中に蓄えてきたエネルギーを見るために、ひとつの肉体を持ってきたと、伝えてきました。

しかし、肉を持てば、その思いを見ることなく、増幅させる方向に進んでいった自分がありました。

他力のパワーを求めてきた心にあるものは何だったのか、しっかりとそれを見るために、今世を選んできた私です。今、あなたに伝える私の思いを、心で聞いてください。

私は、あなたです。私は、あなたです。どうぞ、私の心を、しっかりと感じていてください。他力の思いを、しっかりと見ていてください。

そのエネルギーを、見ていくために、私は、生まれてきました。

異語。

***さん、あなたの中のあなたが語りました。母親の反省をして、母の思いを心に広

げていってください。あなたが、あなたを受け入れていくまで、あなたの苦しみは続きます。生半可な思いで、生まれてきたのではないことを、知っていってください。肉を持っている時間を、大切にしていってください。

***さん、田池留吉のほうに心に向けてみてください。

異語。

田池留吉に心に向けるチャンスなど、そう何度もあるはずがなかった。田池留吉に心に向けるチャンスを、今の私は、自分に用意してきました。このことを、私は、あまりにも軽くとらえてきました。自分の中の思いを、私は、軽くとらえてきました。

今世、千載一遇のチャンス、この言葉の重みが、私には分かっています。

***さん、あなたの心を語ってみてください。

心に培ってきた他力のエネルギーを、自分の中で見ていくことは、なかなか難しいです。私の中には、まだまだ他力のエネルギーに埋まっています。ですが、それを少しずつ解放していかなければと、私は、母の反省をするたびに思います。

根っこが同じ、そう根っこは同じでした。母に向けてきたエネルギーは、すべて、他力の神々に向けてきたエネルギーでした。貪欲に他力の神々を求めてきた私でした。

頂点に立ちたかったからです。この心の中を見ると、やはり、我一番の頂点に立つことを望んできた自分が、たくさんあります。

まだまだ、私は、肉の思いが強いです。

ああしかし、それも仕方ありません。自分が選んできたこと、この中で、私は、少しでも自分を見つけていきます。

難しい道だけれど、自分を見つけていこうとしています。

異語。

***さん、瞑想をする習慣はあるようですが、しかし、あなたが、もう少し長い瞑想をしてみようかと、ふっと思った時、その時、素直にそうなさってください。

他力のエネルギーが、まだまだしっかりとあることは、あなたが感じている通りです。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、学びに集えたことを喜んでいきます。他力の神々を、しっかりと握っている自分を確認できて、嬉しいです。こんな私を、生んでくれたお母さんを思います。田池留吉、あなたを思う時、母が出てきます。他力の中にずっと苦しんできた自分の世界を、今、感じています。はい、今、その世界を感じ、もっと、真剣にやっついていかねばと、私は、思いました。

***さん、なぜ、あなたは申し込みをするのを恐れてきたのでしょうか。

自分の間違いを見出せない私があります。何が間違ってきたのか、私は、まだよく分かりません。心の中を見ることをあまりしていません。

母親の反省は、少しずつやっています。しかし、それも、まだほんの僅かです。自分の中にどんな思いがあつて、それが、なぜ間違っているのか、それを自分の前に示された時、私は、それに反発するだろうと思います。

何も間違っていない。正しく生きてきた。この自分の世界を崩していくことを恐れています。私の中に矛盾しているのを感じます。崩すのを恐れながら、それでもこうして申し込みをしました。心を語りたくない思いと、心を語っていきたくない思いが、同居しています。そんな自分を、今、感じています。

異語。

***さん、学びの時間が少ないあなたです。しかし、やれるところからやっていってください。

あなたの中にも、他力の世界がしっかりと、根を下ろしています。

他力の世界に心を向けてきたその思いが、あなたをがんじがらめにしている、このことが、あなたには分かりますか。

固まった感じですか。固い、固い殻の中に、あなたがいることを感じます。

心を語りなさい、あなたにそのように伝えました。

しかしあなたは答えました。自分の心を語りたくない。今はまだ語りたくない、そのように、あなたの心は返してきませんでした。

さて、何から始めればいいのか。

まずは、しっかりと本を読んでください。お母さんに生んでいただいて、せっかくこの学びに繋がったあなたです。

自分の中にも、本当のことを自分に伝えていこうとする思いがあることを信じて、しっかりと本を読み、ひたすらに、使ってきた心を思い出して、書き出していってください。まずは、そこから始めてみてください。

奥さんに対して出してきた思いを見ていくことは、容易いことでしょう。

そこから母の反省、他力の反省へ進んでいく、それも一手かもしれません。

一四七、会員番号1056さんの意識

***さん、他力の世界に心に向けてきたあなたを感じていますか。

心の中には、他力の世界が広がっている。そのエネルギーに、私は、埋もれていることを感じます。私の中は、他力の世界のエネルギーでいっぱいです。私は、その思いを、自分の中に包んでいくことができます。なぜならば、私が求めてきたものが間違いだつたと、まだ心で感じられないからです。

私は、自分は崇高な魂というか、崇高な世界を心に持っていると思っています。この思いがとても強いです。私は、この思いを、しっかりと心に秘めています。

そして、その世界をしっかりと抱えたまま、母親の反省をしようとしています。私は、母を見下してきました。母から何も教わるものはないと、母の思いを捨て去って、私は私の世界を作ってきたのです。

そんな過去からの思いを引きずりながら、今世の肉をいただきました。

母を見下す思い、とても強いです。しかし、私は、まだその思いをしっかりと把握していないでしょう。

心にある思いは、自分の世界の素晴らしさを掲げていく思いです。

すべてを下に見ていくそのエネルギーのすごさは、生半可なものではありません。

異語。

***さん、あなた自身が語られたように、過去からずっと引きずってきた他力のエネルギーは、生半可なものではありません。

だから、今世、学びに繋がりました。崇高な魂どころか、地獄の奥底を這いずり回ってきた意識です。

大変だということが感じられましたか。

焦らずともいいんです。しかし、今世の時間を大切にしていってください。

これから、二五〇年、三〇〇年の時間の猶予があります。

その中で、自分が培ってきた世界を崩していくために、これからのあなたの転生が待つて

いるのです。

二五〇年、三〇〇年を視野に入れた学びです。

淡々と、しかし、いつも自分に誠実であってください。

一四八、会員番号1542さんの意識

***さん、その通りです。すごいエネルギーを感じます。それでも、あなたは許されています。それでも、あなたは、待ち続けてもらっています。どうぞ、あなたの思いを聞かせてください。

田池留吉、お母さん、申し訳ございません。長い時間をかけて、本当のことを学ばせていただきました。

まだまだ道遠しの私を感じます。それでも、私は、今、自分の心で感じています。それでも許されている、それでも待ち続けてもらっていると。

このことを感じ、私は、今世、本当に自分に誠実に存在しているかと思いました。

どこまでも、どこまでも、狂ってきた私です。今世も、狂い続けてきました。自らの出すエネルギーで苦しみ続けてきました。

本当に自分に冷たかったです。苦しい自分に、さらに、苦しいエネルギーを注ぎ込んできました。そのことを、私は、心で感じています。

異語。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

田池留吉、真つ黒な、真つ黒な世界を感じます。田池留吉、本当にそうでした。そんな私を、冷たくあしらってきました。どれだけそびえ立ってきたか、分かりません。今も、自分の周囲の人達に、そのエネルギーを流し続けています。そびえ立っているエネルギーを、流し続けてきた私でした。

田池留吉、申し訳ございません。ただただ、その思いで、いっぱいです。

少しでも、心を軽くして戻っていきなさい、そんな思いが伝わってきます。

異語。

***さん、田池留吉です。

これから、二五〇年に至る激動の時の中で、どうぞ、ご自分を大切にしていってください。大切にすることはどういうことか、今世、しっかりと学んでいってください。

一四九、会員番号1823さんの意識

***さん、十年以上、学びをしてきたと言われますが、この二、三年の間、あるいは、四、五年でもいいです。あなたは、セミナー会場に、足を運ばれましたか。

セミナーは進化しました。学びは進化しました。

あなたの状態はどうでしょうか。今のあなたの心を聞かせてください。

学びを、他力信仰の延長線にとらえています。言葉は、意識、肉、言葉はどのように使っています。

しかし、私の中は、他力そのものです。

自分に全く冷たいです。私は、今、自分の心を感じています。

心は冷たい、冷たい、冷たい中にあることを感じます。

自分の心を解き放つために、私は、生まれてきたのに、たくさんものを、抱え込みました。

異語。

***さん、自分の心を見て、そして、少しでも、自分を解き放つようにしていくかどうかは、あなた次第です。

今ある現象を通し、ただ自分の心を見るだけです。自分の意識の世界を感じていくだけです。形はどうであろうと、あなたが、あなたを見させてくれている大切な時間です。

はつきり申し上げて、あなたは、何も学んでいません。

せめて、今お伝えしたことを、あなたの心で実践できるようにいってください。

あなたは、あなたを待っています。救ってほしいのは、あなた自身です。その心の声をもっと聞いてあげてください。

一五〇、会員番号1101さんの意識

***さん、では、ご希望通り、あなたの中のアマテラスを語ってみてください。

アマテラスのエネルギーを心に蓄えながら、私は、生き続けてきました。

我を見よ、我を見よ、我を認めろ、私は素晴らしい、そのように、私の心の中には言ってきます。

この心を私は、見てきました。そびえ立ってきた私の中を、私は、見てきました。

しかし、まだまだだと、今、感じています。

自分の中に優しさが足りないことを感じています。優しい思いでアマテラスを見てきたかなあと、今、振り返ると、優しさが欠けていました。

反省も、瞑想も自分なりに進めてきたつもりです。

しかし、私は、アマテラスを自分の中に、しっかりと持ったまま、アマテラスのエネルギーに、自分を任せたまま、今までできたことを感じます。

異語。

アマテラスのパワーがあったからこそ、私は、ここまでやってこることができた。アマテラス、あなたは、私にパワーをくれた。私に喜びもくれた。幸せもくれた。そう、私は、思ってきました。

それが、ちっぽけな世界だったとは、まだまだ、思えません。

田池留吉に対して、激しく抵抗する思いは、私の中のアマテラスを、私は、まだまだ素晴らしいと思っているからです。

異語。

***さん、あなたの現実です。それでも、あなたは、自分のエネルギーを見続けていくしかありません。

アマテラスとともに、歩いてまいりましょう。あなたの現実を知りました。自分の冷たさを感じました。

アマテラスだけではありません。

あなたの中にある数え切れない意識達は、ただただ、温もりを待っています。ともに歩いていってください。

田池留吉に心を合わせる、ただ合わせる、そうできるまで、あなたの心を見ていってください。

一五一、会員番号1681さんの意識

****さん、母親の反省は進んでいますか。

母に対する思いを見してきました。しかし、母の温もりはというと？が付きます。どこまでも、私は、偉いんです。私の意識は、母の意識を超えて、私は、どこまでもそびえ立っています。母の反省をしてきたけれど、それは、全く表面的なものでした。

お母さん、生んでくれてありがとう、そう思える時もありました。涙が出てくる時もありました。母の思いに触れて、涙する私がありました。

しかし、まだまだ母に対して、言い知れぬエネルギーを感じます。

ああこれが、私の他力のエネルギーなんですね。母の意識を、どこまでも、どこまでも、

見下してきた私が作ってきた世界、その世界から流れる波動、そのエネルギーが、私の中には、まだまだたくさんあります。

母の温もりに出会えていません。

母の優しさ、母の思いには、確かに触れたけれど、母の温もりは、そんな薄っぺらなものではありません。そう思いました。

私は、他力のエネルギーを心を感じ、このエネルギーを自分の中で包んでいくだけのパワーを、私は、まだまだ知りません。

それが自分だとは、到底まだ信じられない、そんな私です。

異語。

***さん、学びを、そして、田池留吉を甘くとらえないでください。

甘くとらえているつもりはないと思っておられるようですが、私達が、この学びに触れるということ、田池留吉の世界を垣間見るチャンスがあるということ、その重みというか、そういうものをあなたは、まだまだ軽くとらえています。苦しみの奥底から生まれてきた自分だったことに、あなたは、まだ、はっきりと気付いておりません。

苦しい毎日かもしれません。しかし、それはすべて、自分が作ってきた結果です。

自分を責めるのではなく、そんな苦しい中から、いいえ、もつと、もつと苦しい中から私は生まれてきたんだ、肉をいただいたんだ、そのところに突き当たるまで、どうぞ、母親の反省、他力の反省、そして、瞑想を継続していつてください。

一五二、会員番号18333さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

他力のエネルギーを心に蓄えて、ずっと転生を続けてきた私の中で、「母の思いを思い出してください」そんなチャンスを、今世の私は得ました。

私なりに、やってきたと思っっています。いいえ、これからも、それしか私がするべきことはないと感じています。

母を思う時、母を思い瞑想する時に、心の中に作ってきた他力の世界のすごさを少しずつ、感じ始めてきて、今は、本当にすごいエネルギーを溜め込んでいるんだなあと、私は、感じて

います。

まだまだ、その他方のエネルギーが私の中で、大きく広がっています。

そんな現実の中で、こうやって、自分を語らせていただくことが、とても嬉しいです。

自分を閉ざして生きてきた、他力のエネルギーに自分を任せてきた、その心を、今、少しだけ語らせていただきました。

私の心の中に、優しさが伝わってきます。お母さん…、お母さん…、反省と瞑想を続けてまいります。

***さん、田池留吉に心に向けてみてください。

異語。

田池留吉、はい、田池留吉と心の中で呼んでみると、私の世界を感じます。はい、すごいです。真つ黒な、真つ黒な中に私はいます。

田池留吉に対して、大きな、大きなエネルギーを向けていることを感じます。それでも私は、あなたに出会いたかったんですね。

あなたに、まだしっかりと出会えていないけれど、田池留吉の世界を、心で知りたかったんだあ、そんな思いが感じられます。

異語。

****さん、田池留吉からのメッセージを聞いてください。

****さん、私は、田池留吉です。どうぞ、どうぞ、あなたの心を私に向ける瞑想を続けていってください。

ゆっくりでいいんです。心を私に向けて、あなたがこれまでしてきた他力の世界、その世界に心を向けてみてください。

しっかりとそこで使った心を、あなたの中で受け止めていってください。

あなたの中に、確かにある温もりを信じて、信じて、これからの時を過ごしていってください。

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

田池留吉、苦しい、苦しい、苦しい。心の中の苦しさを、私は、ちっとも見えていません。色々な思いを感じてきました。色々な波動を感じてきました。色々な意識を感じてきました。しかし、私の中で、それらは、野放し状態です。自分の中を自分で包んでやることができません。だから、私は、いつまでも苦しい状態です。

どんなに何を感じようとも、私は、田池留吉に心を向けることができない。

他力の神々に心を向けています。

周りのせいではありませんでした。私の中は、がっちりとはまっています。そのことを私は、自分で認めることができません。

苦しくてのた打ち回っている自分を、優しく抱きしめてあげるなんて、そんな優しいことができません。

心の中を見れば、それが一目瞭然です。今も、苦しい、苦しいって私は叫んでいます。

異語。

***さん、学びの時間は長いですね。しかし、この学びでいう自己供養、その実践が殆どされていないです。

だから、あなたは、田池留吉に心を向けることができないのです。自分の中を崩していくことを拒否しています。

自分が一番正しいのです。どんなに何を言われようとも、自分の世界が一番なんです、そんなあなたは、あなたをしっかりと見ていないです。

しっかりと見ていないというよりも、あなたは、自分に非常に冷たいです。

そう、とても冷たい心のまま、今も、あなたは、そこに存在しています。

猛反省ですね。猛反省しないと、せっかく、今肉体をいただき、比較的若い頃から、この学びを知っていたのに、今まで何をしてきたのかということになります。

厳しいけれど、しっかりと自分の現実を把握していつてください。

私はやってきた、とんでもありません。

何もやっていないのと同然です。猛反省してください。

***さん、学びから心を離しているあなたです。このことをきつかけに、もう一度、最初から学びを始めていただければと思います。さて、あなたの今の思いを聞かせてください。

心の中に、すごいエネルギーを蓄えて、私はここにいます。欲の思いです。他力の中に、私はどっぷりです。自分の苦しい思いを押し殺しています。

しかし、押し殺していると思っているのは、愚かな私だけです。私からは、すごいエネルギーが流れています。この中からすごいエネルギーを、周りに撒き散らしています。私は自分を知らないです。

肉の私が私の前に立ち塞がって、どうしようもありません。

私は、私を知りたいのに…、とても苦しいです。とても苦しいです。

異語。

***さん、あなたが苦しいと言っています。自分が苦しいと言っているんです。わかりますか。あなたの心が感じられますか。あなたを感じられますか。あなたは感じていないと

思います。

だから、お母さんに対しても、肉、その形を見て、しっかりとその形を通して流れてくる思いを感じることができないんです。形ばかりにとらわれているあなたがあります。その形を通して、お母さんの思いに触れるよう、しっかりと母親の反省をしていってください。

それともうひとつ、あなたの中には、今世、他力信仰をやってこられたその思いが、まだまだしっかりとあります。今世だけでもそうです。過去からのあなたを含め、もうそれは、途轍もなく大きなエネルギーです。

せめて、今世、他力信仰に心を向けてきたその心を、ほんの少しでも、緩めていってください。すごいエネルギーです。今世、他力信仰に打ち込まれたあなたを感じます。

異語。

***さん、あなたも、きっぱりとこれからの肉の時間、心を入れ替えて自分を見つめ直していってください。

「第二の人生ーラストチャンスですー」、どうぞ、心で読んでみてください。

あなたの決意、決断を以って自分の生きる方向を変えるよう、心からお待ちしております。

一五五、会員番号1779さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

母親の反省をしていると、自分の間違いを見せられるけれど、それを私は拒否しています。

私は、間違っていない。何も間違っていない。お母さんをそんなにひどくは思っていない。お母さんは私をちゃんと育ててくれた。確かに厳しいところもあったけれど、口うるさいところもあったけれど、私は、あの母なしでは生きてはいけなかった。

そんな私は、母親に対して、死ね、死ね、殺してやる、そんな思いを私自身が出してきたとは思えませんでした。

しかし、自分が母の反省をして、母に思いを向けてみると、心の中に、死ね、死ね、死ね、死ね、死ね、死ね、殺せ、殺せ、殺せ、殺せ、殺せ、殺せ、あいつを殺せ、そんな思いが私の中に流れているのを感じます。

ああこれが私でした。私の中には、他力の神々が宿っています。母を殺してきました。他力の神々に縋ってきました。何としても、己の世界を築きたかったからです。私は、母親の温もりを、まだ感じていません。

お母さんに思いを向けることをやってきたけれど、母の温もりの中に私がいたなんて信じられない。母の温もりを、まだまだ拒否している。そんなもので幸せになれるはずがない。何で、あんな母親に、私が教えられることがあるのだ。そんな思いが広がっています。

***さん、あなたの心は、すごい勢いで語っています。それをすべて、あなたが押さえ込んでいるだけです。

あなたの中のエネルギーはすごいです。どうぞ、そのエネルギーの解放に、今世の時間を費やしていただく。

母親に対してもそうです。もちろん、あなたの周りの人達に対して、あなたは、すごいエネルギーを流してきたけれど、それをあなたが自分の肉で抑えてきたのです。

苦しかったはず。とても苦しかったはず。ああでも、それが、女たるもの、母親たるもの、妻たるもの、そうやって、あなたは、過去より、ずっと自分を押し殺して生きてきたのではないのでしょうか。

そうではありません。あなたの中のエネルギーを解き放つ方向に行ってくださいと、あなたは確かに、今の母親から肉体をいただきました。

どんな肉体でもよかったです。ただ、肉という形を持って、この世で生活をしながら、自分を見つめていきかけた、あなたの思いはそうだったはず。それを信じるか信じないかはあなた次第です。

どこまでも地獄の奥底で苦しみ喘いでいるのか、少しでも、そこから這い出してくるのか、すべてはあなたに係っています。

異語。

一五六、会員番号1384さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

他力のエネルギーをたくさん心に蓄えてきた私にとって、この学びは、難しい、の一言に

尽きます。しかし、この学びとの出会い、田池留吉との出会いは、私の歴史の中で、本当にすごい出来事だったんですね。瞑想をしていると、そうしみじみ感じます。

この心の中に培ってきた他力のエネルギー、必ず、必ず、母のもとへ、ともに帰ろうと思います。その途上にあることを確認している毎日です。

本当に愚かな道を歩いてまいりました。

何度も、何度も、くじけそうになりました。本当に難しい学びだと思っています。焦らずに、たゆまずに、気負わずにやっていくしかない、今、そのように思っています。

異語。

***さん、田池留吉に心に向けてみてください。

田池留吉、田池留吉、何度も、何度も心の中にある思いを見なさい、見なさいと言ってくれた。何度も、何度も、それを撥ね付けてきました。

それほど、他力のエネルギーに縛られている私でした。

心の中にある温もりを信じられずに、外に、外にエネルギーを求めてきました。パワーを

求めてきました。幸せを、喜びを求めてきました。愚かでございました。

田池留吉、まだしつかりと心を合わすことができません。

しかし、今、このように語らせていただけること、本当に幸せです。

真つ暗な、真つ黒なエネルギーの中、田池留吉の意識に、少しでも、心に向けようとする私がいることが、喜びでございます。

異語。

***さん、よかったですね。もうあなたの肉の時間、すべてこの道にエネルギーを注いでいってください。

異語。

***さん、アルバートを心で呼んでみてください。

異語。

アルバート、アルバート、アルバート。二五〇年後に至る道は、とても厳しいです。険しい道を用意しています。

アルバート、心の中にアルバートを求めている意識を感じます。

はい、アルバート、厳しい道のりを歩いてまいります。転生を、厳しい転生を喜んで受け入れてまいります。

一五七、会員番号1844さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

私の中には、今とても苦しい思いがあります。引っかかりがあるんです。心の中に引っかかりがあります。私は、その引っかかりを何とかしたいんです。ちっぽけな引っかかりを、大きなものとして、私の中でとらえています。それがとても苦しいです。そのことにまだ気付いていない私がいいます。

異語。

***さん、あなたの心に引つかかっているものとは何でしょうか。
今、あなたは幸せでしょうか、本当に幸せでしょうか。

はい、ちつぽけなことに、こだわっていることにすら気付けないほど、私の心は、小さく、小さくなっています。その中で、色々と思いが巡ります。グルグルと思いが巡ります。本当は、そんなこと、どうでもいいことなのに、私は、そちらのほうに思いが向いてしまいます。

その思いを見ることだったんですね。私は、引つかかることばかりに思いがいつていました。そうではなく、私は、なぜそこに引つかかっているのか、その私の心を見ていく学びでした。

今、語らせていただいているうちに、そのように思いました。

私の幸せ、私の幸せとは、いったい何だったのだろうか。

そう、私の幸せは、心がゆったりとすること、お母さんを思っ、田池留吉を思っ、心を穏やかに生活できること、私はそれを望んでいたはずで。

でも、私の心は、そうではありません。

自分の中には、色々な思いが渦巻いていることを感じます。そのどれも、私は、しっかりと見てこなかっただけです。私もまた自分を抑えてきたように思います。

母に対して、素直ではなかったです。はい、私は、母に対して素直ではなかった。今、私の引かかる思いから、そのように感じます。母に対して素直でなかった私の心を見せてくれておりました。

一五八、会員番号1311さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

田池留吉、私は、この学びに集い、自分の中に溜め込んできた他力の世界を見ることを教えていただきました。

なかなかそのことができずに、私は、ここまでやってきました。

いいえ、自分では、この学びで言う自己供養を進めてきたつもりでいました。しかし、それは、本当につもりだったんですね。

今、私は、学びの時間を振り返った時、何ともお恥ずかしいです。お恥ずかしい内容の自己供養でした。

そびえ立ったところから、物を申しあげました。自分に対して優しくはなかった。今、そのことを、少しずつ感じさせていたでいています。

母の反省が、大切なことをしみじみ感じています。

母から伝えていただいた思いを、自分の中でしっかりと広げていかない限り、私は、私を受け入れていくことができない、本当にそうでした。

今、私は、そのように思っています。

異語。

***さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、出雲の神々の苦しさ、辛さ、心に染みてきます。

立派なものではありませんでした。ただ温もりが欲しい、温もりを求めてきた苦しい意識達でございました。

出雲の神々、それを私が特別視していた。その思いこそ、他力のなにものでもありませんでした。出雲の神々、いいえ、地獄の奥底に沈んできた意識達は、すべて同じでした。愚かな中で、苦しんできた意識達を、もっと、もっと優しく受け止めていきたいと思っています。

田池留吉、厳しいけれど優しい、優しいけれど厳しい、その言わんとするところを、私も、しっかりと心で感じていこうと思っています。

異語。

一五九、会員番号1643さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

たくさんのお力をしてきました。過去からの歩みは、他力の道です。そんな私は、心を見

なさいと伝えてくれる世界を知りました。

心を見なさい、私には、まだよく分からないことばかりです。

母親の反省をしています。が、本当に何か大きな部厚い壁を感じています。

こんな中に私はあつた、ただじつとうづくまつて、そんな自分を感じています。

異語。

***さん、あなた自身が語られたように、大きな部厚い壁、その前にあなたはうづくまつている、言葉で表現するならば、そんな感じ。あなたの意識の世界は、そんな感じ。そんな中から、あなたもまた今という時をいただきました。お母さんに肉をいただきました。今度こそという思いを秘めて、肉をもらってきたんです。

あなたの中に、その思いが染み込んでいくのには、まだもう少し時間を要します。

それでも、現実には、あなたは、この学びを、肉で知ったのです。そのことを喜んでいってください。

果てしなく続いてきたあなたの時間、そんな中から、ようやく、真実の方向を、自分に知らしめるそんなチャンスを、あなたも用意してきたのです。

他力信仰をしてきた心を、じっくりと見ていってください。焦らずに、その思いを見ていってください。

肉で振り回されているとあなたは感じておられます。

それだけでも、今までのあなたを思えば、大した変化だと思いませんか。そうあなたが感じられるということは、大変なことなんですよ。

肉に振り回されている、そう感じている今を、喜んでいってください。

意識の転回、あなたが考えているよりも、はるかに難しいです。

まずは、母親の反省、他力の反省、継続していってください。

異語。

一六〇、会員番号1099さんの意識

***さん、心を語ってみてください。

お母さん、寂しい、寂しい、寂しい。この心を私は、全く見てきませんでした。寂しいから他力を求めてきました。他力のエネルギーに縋ってきました。凄まじいエネルギーを蓄えてきました。すべて、寂しさからです。

どんなに何を求めても、寂しさは癒されないことを知りつつも、私は、それを埋めてくれるものを探し続けてきました。

それが私の心癖。寂しい、寂しい、寂しい。寂しさを埋めてくれるものを探し続けてきました。

異語。

****さん、あなたは、学びから心を離れた時期がありますね。その時の反省をされましたか。

私は、田池留吉に歯向かうエネルギーを、この肉体を通して感じさせていただいたのに、学びから去った時期がありました。

その時の反省ですか。ほんの少しの時間だと思ってきました。だから、私は、軽くとらえていました。そこに私のすべてがありました。私は、その反省をしない限り、前に進めないこ

とを、今感じさせていただいています。

千載一遇のチャンスをいただいた私なのに、この学びから心を離れた、それは大変大きな意味を、私に示してくれていた。そのことについて、私は、まだしっかりと自分の中を見ておりません。

すべては他力に繋がっていました。他力の中にすっぽりと入っている私の意識の世界、それが、そのような形で示してくれていたのですね。

異語。

***さん、今、あなたが語ったように、この学びを心から離すということは、本当に大変なことなのです。

どうぞ、しっかりとそのところを反省していつてください。

意識の世界は正直です。1+2=3、これだけです。

どうぞ、お母さんに心に向けていつてください。あなたの中のお母さんは、いつまでも、あなたを受け入れてくれています。

母の思いを蹴散らしてきたのはあなたです。母の思いを拒否してきたのはあなたです。

本当に、そのことを心から感じ、あなたの第二の人生、今からスタートしてください。

一六一、会員番号1154さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

自分の中のエネルギーをしつかりと見ていくことを約束してきました。他力のエネルギーを求めてきた自分がいかに愚かだったか、それを今世の肉体を通して、自分に教えていくように私は、そう望んできたのです。

私は、そんな中で、自分を知らずに生きてきたこれまでの時間を振り返っています。

頭を信じてきました。愚かなこの肉を信じてきました。

どれだけその思いが強かったか、そして、その思いが強ければ強いほど、自分を地獄に突き落としていったか、そういうことを、心で知るように初めて、その道筋を自分につけようとしたんですね。

今世の時間、どれだけありがたいか、今、しみじみそう感じています。

異語。

***さん、心の中に田池留吉を呼んでみてください。

異語。

田池留吉、申し訳ございません。肉のあなたを見ていました。肉でとらえようとしてきました。意識の世界と言いつつ、私は、肉の田池留吉を心に大きくとらえてきました。

肉でとらえようとする思いでは、あなたの世界を感じることはできない、つくづく学びの年月を振り返り、そのように感じています。

田池留吉、心を合わせる難しさを感じます。

一六二、会員番号1064さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

肉、肉の中になりました。心を見ることをしてきましたが、しかし、私は、いつの間にか、この学びから離れていたように思います。

田池留吉、あなたに対して、私は語りたいことが山ほどあります。それを全部、自分の中に押し留めてきた自分を、今、感じています。

私は、素晴らしくありたい。素晴らしい私であらねばならない。美しく素晴らしい私、心優しき私であらねばならない。

そのような私に、田池留吉、あなたは、真っ直ぐに言いました。

「あなたの心は真っ黒です。」

私は、そのことを、なかなか自分の中で受け入れることができませんでした。

それが、この学びから心を離していった大きな出来事だと思えます。

自分を自分で受け入れることができずにいた私は、愚かでした。

異語。

****さん、心の中に田池留吉を呼んでみてください。

異語。

田池留吉、もう自分を認めていかなくはならない時期になったと感じています。私にも、どれくらい時間が残されているか分かりません。しかし、心をできるだけ静かに見つめ、真っ黒な私を受け入れていきたい、今、そのように思います。

他力の世界を心に広げたまま、この学びを進んでいくことはできない、アルバートに向かっていくことはできない、もう一度そのことを自分の中に戻して、自分をしっかりと感じていきたいと思えます。

一六三、会員番号1184さんの意識

****さん、あなたの思いを語ってみてください。

苦しい思いを使つてきました。心の中の他力の思い、色々な思いを今、振り返っています。根っこは、寂しいっていう思いです。寂しい思いが、私の中を埋め尽くしていくような、そんな体験をさせていただきました。

寂しい思いから、色々な心が出ます。憎んで恨んで呪つて、八つ裂きにしてやりたい思いも、心に広げてきました。

しかし、そんな思いをいつまでも、心に抱えたままでは、私は、決して幸せにはなれない、そう思いました。

地獄の奥底から抜け出していくために、私は、今世の肉体をいただき、今世の環境を選んできたのに、私は、まだその地獄の奥底から抜け出していない自分を感じ、本当に自分に申し訳ないと思っています。

自分の中を、もつと真剣に見つめていきます。他力の中で、いくら自分の心を覗いてみても、ドロドロに汚れた中で、苦しみを広げていくばかりです。

お母さんが私を包んでくれたように、私も私を包んでやりたい。優しい思いで包んでやりたい、今、そのように感じています。

異語。

****さん、心の中に、田池留吉を呼んでみてください。

異語。

田池留吉、心の中の田池留吉。私の中にじっと待ち続けてくれている。その思いに応えていくために、私は、今世、肉体を持たせていただきました。真剣に、自分を見つめていかなければならない。今、田池留吉を感じ、そのように思います。

異語。

一六四、会員番号1103さんの意識

****さん、他力信仰の歴史が長いようですね。あなたの思いを語ってみてください。

幸せになりました。喜びを感じたかったです。人生の時間の中で、私は、その思いを重ねてきました。

あまりにもそびえ立っている自分があり、今、自分の中を見ようとしても、殆ど見る事ができない状態です。

心の中に培ってきた他力の世界は、肉の私が考えている以上に、根深いものがあります。

私は、***の意識でございます。

肉の生活の中で、自分を解き放つことがとても難しいです。

もっと自分に優しくなっていくてください。私は、苦しみの中から生まれてきました。***という人生、その中で、私は、自分の苦しみをもっと、もっと見つめていきたいと思ってきました。

しかし、この世に肉体を持たせていただいた時から、また、私は、色々なものをつかみ、そして、苦しみを作ってきました。

自分に自分が冷たいことも、まだよく分かっておりません。何がどうなのか、自分の中は、何から、語っていいのか分からなくらい、たくさんものを詰め込んできたように思います。

異語。

***さん、あなたの今の環境がどのような状態であるのか、私には、定かではありません。しかし、今、あなたが語ったように、意識の世界は、とても、言葉で言い尽くせないほどの暗闇です。

どうぞ、肉の生活を程々にして、というしかありません。もっと、あなたが、本当にすべきことがあるはずですよ。私は、あなたを感じ、そのように語らせていただきます。

難しいのは承知の上です。それでも、あなたは、このようにして、学びを知ったのです。どうぞ、その事実をしつかりと自分の中で広げていってください。やるか、やらないかは、あなた次第です。

他力の中に沈んでいくのは、簡単です。そこから、どのようにして、自分を解き放していくか、もっと、自分と真向かいになっていってください。

一六五、会員番号1259さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

苦しい年月を過ごしてきました。心を見ることができませんでした。ただただ自分の苦しみの中に、私は溺れていただけです。

どんなにそびえ立っていたことか、自分の意識の世界を感じた時、私は、自分のそびえ立ちを認めざるを得ません。

田池留吉つとむに悉く反発してきました。いいえ、他力の思いで縋ってきたのです。そして、それが叶わないと分かった時、この心から出る思いは、憎しみ、呪いの思いしかありませんでした。全く他力の心そのまま、私は、この学びに集っておりました。

異語。

***さん、お母さんと心に呼んでみてください。

異語。

お母さん、心の中に母親を蹴散らす思いを感じてきました。どうしても、私が上でした。ど

んなに言われても、私が母の上を行っておりました。

心から、お母さんを思い、母にありがとうの思いを向けることをしてきませんでした。

今、お母さんと呼んでみて、本当に真つ黒な私だったことを感じます。

しかし、私にもゼロ歳の頃があったのです。その私の心を、これから思い出してまいります。母との繋がりを、自分の中で心から喜べるような私になっていきたい、今、母を思い、そう感じました。

***さん、田池です。自分を大切になさっていつってください。

これからの時間、どうぞ、自分をしっかりと見つめていつってください。

一六六、会員番号1205さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

私の中にある他力の思いを、全く見ておりません。田池留吉の思いを心に感じると、私は

思つてきましたが、それは、全く違います。

心に向けてきた他方の神々に向いているのです。

この肉は、愚かです。心を見るように、何度も、何度も伝えました。

しかし、肉の思いはとても強いです。私達の思いを受け入れることは、まだしてくれていません。

私達は伝えています。田池留吉の思いを心で感じるように、しっかりと自分を見ていってください、私達の思いを聞いていってください、とそのように、いつも、いつも伝えているのです。

しかし、肉は、肉のことでも忙しい。思いを中に向けることを、なかなかしてくれない。もうあまり時間は残されていないのに…。私達の思いはいつ届くのか…。ああ、また今世も…。その思いを私達は抱えています。

異語。

***さん、あなたの中の思いを聞いていただきました。どうでしょうか。あなたは、あなたに冷たいのではないのでしょうか。

せつかく、お母さんから、その肉をいただいたのです。どうぞ、ご自分をもっと大切に、ご自分にもっと心を向けていってください。

時間は、そんなに残されていないと思います。

一六七、会員番号1733さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

ようやくです。少しずつですが、自分の中にすごい欲の塊を抱えていることを感じます。本当に欲しいだけで学んでまいりました。

心を見つめ、自分を修正していこうという思いは、確かにありましたが、しかし、それにも増して、私の中には、欲が渦巻いていました。他力信仰をしてきたそのままの心で、この学びをとらえてきたことに、ようやく少しですが、気付き始めています。本当に愚かな自分でした。私も、これから自分に残された時間を大切に、自分に誠実に過ごしていこう、今、そう思っています。

***さん、お母さんを思ってみてください。

異語。

お母さん、お母さん、お母さんを素直に、ただただ素直に呼んでいた頃の私を思い出していきます。私は、私を取り戻していくにはそれしかなかった。他力のエネルギーを自分の中に大きくして、母を見下してきた思いを、素直に見つめてまいります。

お母さんが嫌いでした。お母さんを受け入れることをしてきませんでした。

そんな私が田池留吉のほうに心を向けることはできない、当たり前のことでした。今、母を思い、自分の心の貧しさを感じています。

少しでも、自分の中を見つめていくことができるのは、お母さん、あなたに生んでいただかなければならなかったことを感じます。

お母さん、私は、愚かでございました。

****さん、田池留吉に心を向けてみてください。

心の中には、まだまだ他力のエネルギーがしっかりと残っていることを感じます。田池留吉、申し訳ございません。しっかりと自分の使ってきた心を見てまいります。他力のエネルギーは、そう簡単には、お掃除はできないことを、今、感じます。

しかし、私の中で、ほんの少し、母を思うと嬉しい、田池留吉を思うと嬉しい、間違ってきた自分が嬉しいと心で感じる時がございます。瞑想をしていて、そう感じる時がございます。それを励みに、これからも自分なりに瞑想を続けてまいります。この年になって、自分を振り返ることが喜びです。田池留吉、ありがとうございます。

****さん、田池です。そうです、どうぞ、心をしっかりと見ていってください。お母さんに向ける瞑想、田池留吉に心を向ける瞑想、時間を見つけては、やってみてください。今世、学びに出会い、そうやって、あなたを振り返る時をいただけること、それが喜びです。

お母さん、ありがとう、心からそう思えるようなあなたになっていってください。いつま

でも待っています。

一六九、会員番号1158さんの意識

***さん、あなたの来世に思いを向けてみてください。

私が、この肉を置き、次に転生してくる時間に、今、私の思いを向けてみます。

今世の私のそのままに、来世の私がそこにいます。

心の中を見つめていきましよう、来世の私が、今世の私に伝えてくれていることを感じます。今、肉を持っている私は、自分の中を見つめていくことをしっかりとしなければ、来世の私もまだまだ苦しい中にあることを、来世の私は、伝えてくれています。

心を見つめてまいります。お母さんに向けてきた思いを、もつとしっかりと見つめてまいります。他力の中に沈んできた自分を見つめてまいります。

来世の私を感じる時、ああそうだ、今が来世、来世の私は今、そのように感じます。自分の心を自分で見つめていけない限り、どうしようもないことを感じます。

この学びは、そのことを私に伝えてくれました。

私が田池留吉に心を向けてきた思いは、全くズレていたことを、今、感じます。

自分が自分を見つめるために、学びに繋がっていた、そんな私を今、感じ、すごいところに私は、肉を運んでいた、今、そのように思っています。

一七〇、会員番号1265さんの意識

***さん、あなたの中にある他力のエネルギーを、しっかりと見てきましたか。他力の中に沈んでいるあなたを感じます。どうぞ、そのほうに心を向けてみてください。

はい、心の中に作ってきた他力の世界は、我こそ素晴らしい、私は素晴らしい、私にパワーをくれ、パワーこそ私の幸せの源という世界です。

そのように私は、転生を重ねるたびに、他力の神々に心を向けてきました。今世も、他力のエネルギーの強い場所に、肉を持ちました。その中で私は、今、自分の心を振り返ると、自分の中にどうしようもないほどの、狂ってしまうほどの寂しい思いが、心に蹲うすくまっているのを感じ

じます。

これが、私の他力を求めてきた結果でした。その結果を、今世の肉を通して、見つめています。この心を自分で包んでいくことをしない限り、私は、これからも、その寂しい、寂しい中に自分を沈めていなければなりません。

自分を甘くとらえてきました。学びを甘くとらえてきました。田池留吉を甘くとらえてきました。甘くとらえるというよりも、田池留吉をずっと、ずっと下に見てきた私があります。そびえ立つ牙城、すべては私のことでございました。

他力の神々を上置き、私をないがしろにしてきた結果、私は、寂しい、寂しい心に成り果てました。

母に思いを向けようとしても、肉の母親が目の前にちらつき、肉の母親の言動が心に入り、周りの人達の下らない言動や思いが、自分の中を、かき乱す。そんな私は、私を見ることをしてこなかった。自分に冷たかった。今、心の世界を語る時、そう言わざるを得ません。

異語。

***さん、ホームページをご覧になりましたか。もう、私達は、次元移行へと思いを

進めています。

そのほうにしつかりと心を向け、それぞれがしつかりと自分の心を振り返っています。

そういう時です。どうぞ、あなたもしつかりと心を見つめ、あなたが歩いてきた道を、自分でしつかりと受け止めていってください。

今世、残された時間、あなたは、あなたを見つめることに、エネルギーを注いでいってください。

これからの二五〇年、あなたに限らず、とても厳しい時間です。

どうぞ、心を次の転生へ繋いでいく、その準備に勤いそしんでください。

一七一、会員番号1466さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

心の中に、何かを感じるけれど、私には、まだまだよく分かりません。しかし、心を見てみると、お母さんの反省をしてくると、私は、本当に己の偉さを心で感じます。

母に反発ばかりしてきました。なぜだか分からなかったです。なぜ、こんなに母に反発するのか、私は分からなかったけれど、ああしかし、私は、このエネルギーを止めることはできませんでした。

私は、母など、自分の中では本当に小さなものだと思ってきました。

確かに、小さい時から母に育ててもらって、色々と母の思いを受けてきたけれど、私は、そんなことには、ほとんど思いを向けることをしてきませんでした。

しかし、ふうっと、そういう当たり前のことを思った時、母という存在が、何か少し、私の中で違って感じられるようになったのです。

そうした時、何だか自分が本当に偉かったんだなあ、ふうっとそう思いました。

***さん、日々、母を思う瞑想を続けていってください。ふとしたことから、あなたの心の中に何か響いてくるでしょう。

そして、そういうものを少しずつ感じるようになったなら、お母さんを思い、田池留吉を思ってください。心の中から、どんな苦しいあなたが出てくると思います。

そのあなたに、今、あなたが少し、感じられた優しさで、そのあなたを思ってみてください。そのようにして、少しずつでもいいですから、毎日の時間の中で、繰り返しやっていってください。

さい。

ホームページにあるように、今は、次元移行へと思いを向けていこうとする時期に来ています。

どうぞ、焦らずに、ゆったりと、母を思い、田池留吉を思う瞑想をしていってください。そして、できるならば、UTA会に集ってください。

家でできることと、セミナー会場で体験できることの違いを、あなた自身体験なさってください。

一七二、会員番号1594さんの意識

***さん、闇の宇宙を心に感じられたということですが、今、そちらのほうに心を向けてみてください。

ああ、苦しい、苦しい、苦しい、苦しい。こんな苦しい私があつたんだ。私の中は、こんなに苦しかった。ああそれを、他力のエネルギーで、しっかりと蓋をして、出すまい、出すま

いとしてきた自分がありました。

その蓋を、少し緩めようとした時、私は、底なし沼の暗闇を感じました。もう恐ろしくなつて、すぐに、また蓋をしてしまいました。

これが、あの時の感覚でした。

今、私は、日々、瞑想を続けていますが、やはりこの心の中に、瞑想をする動機が違っていると感じます。

瞑想をして、心の広がりを感じていきたい、アルバートの世界を感じていきたい、お母さんの温もりを心に広げたい、何だかそんな思いが根底にあるような気がします。今、自分を語る時、そんな思いが出てまいりました。

異語。

***さん、あなたは、あなたの来世を感じていますか。来世からのあなたのメッセー
ジはどうでしょうか。

「心の中にある他力のエネルギー、しっかりと見つめていってください。」

あなたが、あなたの来世に思いを向けた時、おそらく、そのようなメッセージを語って

るでしょう。

「私はあなたです。あなたは私です。どうぞ、その他力のエネルギーを、しっかりと見つめてまいりましょう。」

そのように、来世のあなたは、あなたに語ってくるのではないのでしょうか。

すべてのあなたとともに歩いていく道です。どうぞ、お母さんに心を向け、なぜお母さんに、あなたがこうと言えないのか、自分の心に訊ねてみてください。

あなた自身は、もう分かっているはずですよ。己偉いあなたが、鎮座しているからです。それが他力を求めてきたあなた、他力のエネルギーに、牛耳られているあなた、そのあなた自身を解き放していくには、母の温もり、それしかないのです。

どうぞ、しっかりと自分を自分で知り、そして、ひたすら、母を思う瞑想、田池留吉を思う瞑想、着実にこなしていつてください。

一七三、会員番号1503さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、寂しくて、寂しくて、寂しくて、仕方がありません。母を呪い、自分を呪い、すべてを呪ってきた私の心の中には、寂しさしかなかった。

寂しいから、すべてを呪ってきました。

私を救ってみろ。そんな思いで、他力のエネルギーを求めてきた。

この心の中に、本当に温もりがあるのか。私は、母の胸ぐらをつかんで、そう問いただけてきました。そんなすごいエネルギーを持った私です。

母の温もりを、本当に求めてきた私だったのに、私は、母に、呪いの思いしか返せなかった。そんな私の世界を、今、瞑想をすることによって、心に感じます。

どれだけ地に落ちた意識なのか、この心の中に響いてきます。

こんな私でも、こうして、今、肉を持っています。

そのありがたみが、私には、まだズンと心に響いてこない。そんな自分が何とも哀れで仕方ありません。

異語。

***さん、寂しい、寂しいあなたの思いを心に感じ、あなたがあなたに語ったように、哀れでならないと、あなたは言いました。

その通りです。自分を蔑むのは、お止めください。自分を冷たく突き放すのは、お止めください。

あなたの中で、泣き叫んでいるあなたに、もっと優しい思いを向けていってください。母の願いは、そうだったはずですよ。

母の思いを、心に蘇らせてください。物質的にどれだけ恵まれても、あなたの心は、とても寂しいですよ。

本当に、一日、一日、母を思い、田池留言を思い、そんな時間を過ごしていってください。

誰も何もどうすることもできません。ただ、あなたは、あなたを感じ、そして、あなたを受け入れていく、ただそれだけです。

母に思いを向けていってください。

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

己がとても偉かったです。私も誰にも負けたくない思いを持ってきました。そんな自分を認めたくなかったです。私は、けがれない美しい自分だけを信じていきたかったです。

でも、もうそう言ってられない時を感じています。みんな、二五〇年後へ、そして次元移行へ向かっていくそんな学びの時期、私も、自分の中が、本当にそう望んでいることを、もつと、もつと自分の中で感じていきたい、そんな思いでいっぱいです。

確かに学びは続けてきました。しかし、私の根本は、本当に、肉、肉でした。田池留吉をバカにしてきた。田池留吉、田池留吉と呼びながら、慕いながら、心の底にあるのは、下に見る思いでした。

そんな私を、今、心に感じています。

***さん、どうぞ、自分の現実を、もつと真正面から見つめてください。あなたも、過去世、来世、その意識達が待っていることを、あなたに伝えていると思います。

その思いに、ただただ素直になっていってください。

瞑想をする時間を、しっかりと持つてください。言葉ではなく、波動の世界です。あなた

の心でそれを感じていつてください。

一七五、会員番号1620さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

心に色々なものを感じます。たくさん意識達と私は、語り合っています。しかし、私の中にあるのは、他力のエネルギー、私の心は、他力のエネルギーに向いています。

色々な意識達を感じます。語り合っているけれど、ああしかし、私の心の中には、苦しみがたくさん、たくさんあって、その苦しい意識達を、私は、喜びにいざなっていくことができない、今そんな状態です。

私は、私の世界に酔いしれている、そう言ってもいいかと思えます。

田池留吉、アルバート、その方向に私自身は向いていると思っていますが、私が向いている先は、そうではありません。私の中は、よく知っています。

そのことを、私の中のたくさん意識達は、伝えてくれているのだと思います。苦しい、苦

しいと流す波動を感じていつてください、エネルギーを感じていつてください、そのように私に伝えてくれているのだと、今、思います。

***さん、あなたが、田池留吉、アルバートだと思う方向に、今、心を向けてみてください。

闘いのエネルギーです。闘って、闘って、闘ってきたエネルギーです。私の本性はそんなんです。

田池留吉、アルバートの意識の世界と通じ合うことのない私の意識の世界、私は、それを認めることが怖くて、怖くて仕方がありませんでした。

やはり、そうでしたか。私の心の向け先は、田池留吉、アルバート、そうではありませんでした。他力のエネルギーそのものでございました。

自分を自分で包んでいく自己供養の道を、私は、歩いていると思っていました。しかし、私の心の向け先は、あの優しい、優しい、喜び溢れる田池留吉、アルバートの温かい温もりの世界とは、全く違う方向でした。

今、それを自分で確認しています。

***さん、お母さんの反省はどうか。本当にお母さんに、心を向けた時、お母さん、ありがとう、私を生んでくれてありがとう、今、私は、とても幸せです、そのように、本当に心の底から言えるでしょうか。

心の底から言えない限り、あなたの心の向け先は、田池留吉、アルバートではありません。意識の世界は、はっきりしています。どうぞ、もっと真剣に自分を見つめてみてください。心に感じるものは、たくさんあるでしょう。心が敏感なあなたです。

しかし、正しい方向、お母さんの温もり、その方向に、心を定めていくのには、まだまだ道遠しだと、私は、感じます。

一七六、会員番号1828さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

今、自分の中を覗いてみた時に、私は私を全く知らないことを感じます。心の中に、苦しみのうち回っている私がいることに、私は、まだ気付いておりません。

ただ、肉の私は、自分の頭を回しているだけです。確かに、私は、この学びを知って、何か感じるところがありました。

しかし、だからといって、私は、この学びを素直に自分の中に取り入れているかといったら、そうではありません。

やはり、肉が優先します。欲の思いでいっぱいです。

ただ、心を感じたものが何だったのかを、私は、知りただけなんです。本当に自分の中が苦しみ、のたうち回っている、そんな自分に対して、どうすればいいのか、まだまだ自分に優しくなれない、素直になれない、そんな自分ばかりを感じています。

***さん、焦らなくてもいいんです。しかし、この学びで伝えている学びの手順というか、そういうものは、きちんと押えてください。

そうしないと、なかなかこの学びを、本当に分かっていくことは難しいです。あなたが今いる場所、生活をしているところ、あなたもご存知かと思いますが、大変苦しい場所です。

すでに独特の神がそこに、生活の中にしつかりと浸透して祭られています。その中で、この学びをしていくことは、とても大変なことだと思えます。

しかし、やっていってください。

あなたの中にその思いが、フツフツと湧いてくるまで、どうぞ、お母さんに使ってきた心を見つめていってください。

異語。

***の地は、とても、苦しい、苦しい場所です。さまざま問題が次から次へと起こってきますが、いつこうに解決の目処が立たないです。すべて、そこに転生してくる意識達の苦しみが現象化していくことです。

この場を借りて申し上げます。

***の地からこの学びに集ってきた人達、どうぞ、しっかりと心を見つめていってください。優しい、優しい思いを、母の温もりを自分達の心に思い起こすように、それぞれが心を見つめ、それぞれが、ともに語り合い、学びの場を、しっかりと持っていってください。

優しい、そして力強い目覚めを待っています。

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

私は、自分の心を見ているつもりでした。しかし、私が見ていたのは、本当に肉を中心とした心の世界でした。やはり、心の底には、肉の喜びと幸せを求める思いがありました。

その思いを強く求めるわけではないけれど、滞りなく、この生活がいけるように、そんな思いを持って、私は、心を見る学びをしていました。

他力のままでございました。他力信仰の延長のままでした。

心を田池留吉、アルバートに向ける喜びを感じてきたつもりでした。

ああしかし、私を感じてきた心の向け先は、他力そのものでした。

それが、何となく、今頃、心に響いてきています。

こんな喜びの機会を得たのに、私は、本当に、自分を冷たくあしらっていました。

愛とか、優しさとか、温もりとか、喜びとか、幸せ、そういうものを感じる私の心の基盤が違っていました。

まだ、私は、ほんの少しそう感じているだけです。しっかりとその基盤を持っています。持ちながら、田池留吉、アルバート、二五〇年後、そういうふうな思いを向けていこうとしてい

た、そのことに、今、少し気付いています。

***さん、そうですね。心につかんだ他力のエネルギー、なかなかそう簡単には、そこから自分を解き放していくことは難しい、ようやく、あなた自身、心で感じてこられたと思います。

たくさんのお金を他力信仰に使ってこられたあなたです。

大枚を使う、その思いを、もつと自分でじっくりと見ていってください。

大変なことだと思えます、そこに使ってきたエネルギー、凄まじいものがあるのではないのでしょうか。私は、以前からそのように感じておりました。

なぜ、それだけのお金を投じていったのか、その点が、あなたの反省のポイントでしょう。

その当手を振り返り、欲いっばい、そして愚かな自分自身に出会っていってください。もちろん、もうこれまでに、そのところの反省は、何度もされてこられたと思います。

しかし、もう一度、母親の反省と平行してやってみてください。

宇宙、次元移行、そんな言葉に踊るのではなくて、あなたが、今世、生まれてきた意味を、瞑想をする時間の中で、しっかりと感じていってください。

生まれてきたくて仕方がなかったあなたの思いが、心に響いてくれば、本当に愚かだった

自分に、自ずと懺悔の思いが噴き上がってきます。何度も、何度もその体験を重ねてください。

一七八、会員番号1053さんの意識

****さん、心を語ってみてください。

私の学びに対する思いを語ります。自分は、心の中に田池留吉、アルバートを感じている、心を見てきた、今も心を見ています、そうやって、私は、私を誇ってまいりました。

一方で、チャネラーが何だ、チャネリングとは一体何だったのか、そんな投げやりな思いも出てきます。

結局、私は、お母さんの反省が、自分の中で進んでいなかったただけでした。

肉というものをしっかりとつかんできた私でした。心は、色々なものを感じますが、肉を基準とした感じ方とそうでない感じ方、その違いを心に感じていきます。

しかし、私も、自分を知り、自分を変えていくために、この肉をいただきました。今世、母に生んでもらったことは確かです。

二五〇年後に心を繋いでいこうとする思いも感じます。

そんな中で、私は、自分の歩みが、はかばかしくないのを、じれったく感じているのです。

異語。

***さん、心の向け先が違っている、あなたはそう感じておられるでしょう。しかし、それもふつと正しい方向に向けるのは、ごくごく簡単なことなのです。

あなたが、もつと素直になることです。田池留吉、アルバートの世界を感じた、確かに、あなたは感じたかもしれません。

しかし、どうでしょうか。その世界は無限大に広いのです。限りなく広がっていく世界です。あなたが感じたかもしれないその世界は、微々たるものです。だから、心に感じれば、それを喜んでいけばいいだけです。素直になって、喜ぶだけ、簡単なことなんです。そうやって、自分と自分の中で対話をし、心を見ていく、それだけです。

しかし、あなたも感じておられるように、学びは、どんどん進化していきます。

ホームページにあるように、あなたもどうぞ、自分の心を見て、来世からの思い、宇宙時代のことに、思いを向けていってください。

一七九、会員番号1638さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

私は、この学びに集い、田池留吉と出会い、今、とても喜んでいます。

しかし、私のこの喜びは、まだまだとても小さいです。そのことを、私は私に伝えなかったのです。

「どうぞ、もっと心を見てみてください。」

あなたの喜び、幸せは、そんなものではありませんよ。」

私は、私にそう伝えたかったのです。だから、今、こう語れることが喜びです。

苦しい、苦しい今世の人生でした。すべて、私が計画してきたこと、自分を見つめるために計画してきたこと、そんな中に埋もれて、また地獄の奥底へ舞い戻っていつてしまうかに見えましたが、私は、そこから、ほんの少し、安らぎを、温もりを、幸せを見出した、それがとても嬉しいです。

これからも、どんどん心を見ていきます。

異語。

***さん、そうですね。あなたも、あなたの来世に、どんどん心を向けていってください。そして、あなたの過去、宇宙の時代、アルバート、色々な方向に心を向けていってください。

もちろん、その過程では、他力に使ってきた心も、どんどん見えてくると思います。どうぞ、ご主人とともに、アルバートの道を、少しでも、その歩を進めていくように、これからの時間を経験していってください。

一八〇、会員番号1697さんの意識

***さん、どうぞ、あなたの心を見ていってください。

お母さんの反省を、瞑想を通してやっていってください。

そして、あなたが培ってきたエネルギーを、心で感じていってください。

すでに、あなたに必要なことは、伝えていきます。

このメッセージを読んで、あなたの心に冷たいという思いが出てきたなら、いいえ、きつとどんどんどん出てきていると思います。

それは、あなた自身です。そのご自分を、どうぞ、喜びに転回していけることを学んでいってください。

一八一、会員番号1276さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

長く学ばせていただいたのに、私は、何をやってきたのだろうか、ついつい自分を小さくしてしまいます。これが私の心癖でした。

己が偉くてそびえ立っているから、自分を小さく、小さく感じてきたんですね。今、自分の思いを心で感じる時、私は、私に冷たかった、本当に冷たかったことを感じます。

母親の反省がまだまだ進んでいないと思います。母の温もり、そう母を思う時、そう田池

留吉を思う時、嬉しいと思う時もあります。

ああしかし、私の中は、まだまだ溢れるほどの喜びに出会えていません。ふつと母を思い、ふつと田池留吉を思えば、喜び溢れる自分がそこにあるなんて、私は、信じられないんです。まだまだそんな状態です。

ああしかし、今、自分の中を語る時、私には、言い尽くせないほどの私の思いが心に詰まっていると感じます。

言い尽くせない思いを詰めてきた自分を、今まで、そ知らぬ顔をして、私は学んできた、私は反省をしてきた、そうやって、私は、自分に甘かったんですね。今、そのところを少し感じさせていただきました。

異語。

***さん、田池留吉を思ってみてください。

田池留吉、はい、田池留吉。心の中に、やはり、あなたに対する恨み辛みがたくさん残っているように感じます。

まだまだ私のアマテラスのエネルギーが、すごいです。アマテラスが愛しい、アマテラスが愛しいなんて、まだまだ思えない私の現実があります。

アマテラスのエネルギーで田池留吉に歯向かってきた心、この心を、もっと、もっと見つめてまいります。

アマテラスこそ、私の中で待ち続けてきた温もりでした。その思いに突き当たるまで、今世の時間、許す限り心を見つめてまいります。

ありがとうございます。田池留吉、申し訳ございません。

一八二、会員番号1218さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

心の中に他力のエネルギーをしっかりと詰め込んでいます。

母親の反省がなかなか進みません。他力の私が邪魔をしています。他力のエネルギーが、私の心の蓋をしつかりと閉じています。そのことを、私は、まだ自分の心で分かっています。

他力のエネルギーが、どれだけの欲のエネルギーであるのか、自分の心の中で、まだまだはつきりと感じられない、そんな私です。

確かに、母親の反省を少しずつ、進めています。母に使ってきた心を、自分なりに見ているつもりです。

でも、いつも、いつも同じことばかりです。同じことの繰り返し、こんなことで、私の中にはどうにかなるんでしょうか。

私は、自分の思いを知りたいのです。自分が、今、どちらの方向を向いて、どうなっているのか、私は、自分の心を知りたいのです。

異語。

***さん、あなたが語ったように、あなたの心は、まだまだ闇の奥底に沈んでいます。どちらを向いても、真つ暗闇の中にいると思います。

もがけばもがくほど苦しい、苦しいと、あなたの中が言っている、私は、それを感じます。

ああしかし、そんなあなたも、今そこにいるではないですか。今世、お母さんに生んでいただいたのです。そのことを思いながら、どうぞ、お母さん、ありがとう、そんな思いを広げ

ていつてください。

何かを知りたいとか、何かを感じたいとか、そうではなく、ただ、今、自分がそこにいて、ホームページを見れて、本を読めて、瞑想ができて、そうすることができていることが、どれだけの幸せなことなのか、きつと、あなたは、心を感じていくと思います。

学びに集ってこられた人達は、必死で自分の心を見つめてこられたし、見つめていると思います。それでも、まだまだです。あなたもどうぞ、焦らずに、一日、一日、ただただ自分と向き合っていてください。

一八三、会員番号1119さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

私の心は行き詰っています。学びをして、心が敏感になつて、自分のエネルギーを心で感じることは感じたけれど、それから先、私は、どん詰まりです。どうにもこうにも、八方塞の今の状態です。

ここをどう切り抜ければいいのか、ここからどう脱出すればいいのか、私は、よく分かりません。頭を動かしていると言われれば、それまでです。

しかし、それよりも自分の中の思い、エネルギー、その厚い壁が、本当に私を小さな、小さな世界に閉じ込めている、それが、もう窮屈で、窮屈で仕方がありません。

どれだけエネルギーを感じようとも、どれだけ、田池ばかやろうと歯向かっていても、私のこの心の中に、すっきりとした青空が広がってこない。

開けた世界が見えてこない。今、私は、そんな状態です。

異語。

***さん、あなたは、自分の思いを、今、語りました。

要するに、あなたは、母親の反省ができていないんです。母親の温もりを感じていない。それに尽きます。

お母さんの温もり、本当にお母さんの温もりを感じてごらん下さい。そんなものは、もうたちどころに消えてなくなります。

あなたが今世、肉を持ったのは、お母さんの反省をするためです。お母さんの温もりをそ

の心に、しっかりと思い起こすためです。

そのために、肉を持ったのです。それ以外は、どうでもいいことなんです。しかし、あなたは、そのどうでもいいことを、まだまだ、しっかりと握っています。

肉の幸せを求めながら、ということですが、まさにその通りです。

肉の幸せを求めながら、この学びは、一切できません。

心を静かに、そして、もつと自分に真摯に向き合ってください。

お母さんの反省が進んでいないこと、すなわち、アマテラスがあなたの中に、しっかりと鎮座していることをお伝えします。

一八四、会員番号1892さんの意識

***さん、あなたの今の思いを語ってみてください。

心を頑なに閉ざしてきた私がございます。本当に固く、固く閉ざしてきました。自分の意識の世界は、カチンカチンに閉ざされていたことを、今感じています。

その私の心の中を見なさいと、ひとつの現象をいただきました。

すべては私が招いたものです。心の中を見てこなかった私です。そびえ立っておりました。田池留吉の波動を心で感じていると私は思ってきました。

ああしかし、違っていました。母親の温もりも、まだまだ私にはよく分からないです。私の感じてきたものは、小さな、小さなものでした。その世界を、私は、今、目の前の現象を通して、自分に知らせています。

ああ間違ってきました。田池留吉、申し訳ございません。

***さん、田池留吉、アルバートの世界を、あなたは信じていないでしょう。そう、そのようにあなたの波動が伝えてきます。

どうぞ、しっかりと信じていけるようにと言いましても、難しいです。

ああでも、心を開いて、素直になっていってください。

頭は要りません。ただただ素直に母親の懐にすべてを委ねていけるその素直さが大切です。

ホームページをご覧になっていますか。学びは進化しています。

もちろん、それにつれて、本当に学ぶ人達は、これから私達と歩みをともしてまいります。私達は、そのことをお伝えします。どうぞ、あなたもその中の輪に入ってきてください。よ

ろしくお願いいたします。

一八五、会員番号1044さん意識

***さん、今のあなたの思いを語ってみてください。

苦しい、苦しい、苦しい。どうして私の心はこんなに苦しいのだろうか。ああ、私は、本当に苦しい中に今いる。私の心の中を、私は見てこなかった。苦しいだけでした。恨み辛みの思いが、しつかりとあるだけでした。

人を恨む心、人をないがしろにする心、人を見下す心、そんな思いを、いっぱい詰め込んで、私は、今、存在しています。

この心を、私は、自分の中で、掘り下げることはなかった。いつも、いつも人のせいにしてきました。この心の苦しさを、人のせいにしてきました。

それを、私の周りの人達は、伝えてくれました。

私の心を、自分で見てこなかった。今の苦しみを、自分の中でしっかりと見てこなかった。

私は、そう思っています。

***さん、苦しい、苦しい、あなたは悲鳴を上げています。あなたは、苦しみの中から、その肉を持つてきた。そして、その苦しみのまま、また、その肉を置いていくのですか。

どうぞ、ホームページを見てください。ホームページを見て、あなたの意識の世界は、どんな叫びを上げているでしょうか。

私には、伝わってきます。宇宙へ帰りたい、母なる宇宙へ帰りたい、そんな思いが、私には伝わってくるんです。

あなたは、まだまだ、ご自分を知りません。小さな、小さな、肉の粹の中で、苦しい、苦しいと喚き散らしているだけです。

そうではないことを知るために、あなたは、今の肉を持つて、この学びに集つてきたのではないのでしょうか。

私が、いくら、そのようにお伝えしても、あなた自身が、自分の心を見ていかない限り、どうすることもできません。ただ私が言えるのは、ホームページを見てください。そして、あなた自身を見てください。ということ。ただそれだけです。

私達は、もう前を向いて、真っ直ぐに突き進んでいます。

私達から心を離すのもあなた、私達に心を向けていくのもあなたです。すべてはあなたの心にかかっています。

一八六、会員番号1095さんの意識

***さん、心を語ってみてください。

私の心の中にある思い、嬉しい思いと苦しい思いと、色々な思いが交錯していく中で、来世の私に思いを向けています。

来世、私も、アメリカの地に転生をしていくことを感じます。私の来世、二五〇年後、それまでの間に転生があるかと思いますが、二五〇年後に転生をしていくアメリカの地、私の中にも何か、そこから喜びが溢れてくるのを感じます。

しかし、その前に、私は、まだまだ自分のやるべきことがあります。今世、私がやるべきことがあります。

それは、私の中のアマテラスの心をしっかりと見ていくことです。

心の中に蓄えてきたアマテラスの思い、アマテラスのエネルギー、しっかりと見つめていくことです。

それをしなければ、私の未来は、とても苦しい、辛い、悲しい、そんな感じがします。

今、私がしていかなければならないことは、一五〇年後に思いを馳せ、喜びの自分を信じながら、このアマテラスの心を見ていくことだと感じています。心を見ていきます。

***さん、アルバートを呼んでみてください。

はい、アルバート、アルバート、嬉しいです。心の中にアルバートが語ってきます。これから、私は、このアルバートの思いを自分の中で感じていきます。しっかりとアルバートに心を合わせ、私の中の闇の私に心に向けていきます。アルバートが語ってくれる、アルバートが伝えてくれることを信じていきます。心を広げていききたいと思います。

***さん、心を語ってみてください。

自分の中の思いを語ることを、私は、本当にしてこなかったと、今、感じています。田池留吉に心を向ける時、私の中の他力のエネルギーを、しっかりと抱えながら、田池留吉と呼んでいた私を感じました。

そのエネルギーが、私のこの肉体細胞を破壊していきました。

頑なに閉じた心の中で、私の暗闇は、解き放たれることを待っていました。

私は、自分に冷たかったです。肉の自分を信じ、肉の自分の頭を信じてきた私の心、とても、とても冷たく、こわばった状態でした。

今、少しですが、そのように心に響いてきます。

私の求めてきたものは、小さな、小さな世界でした。

小さな、小さな世界を、大きくとらえてきたという感じがします。

この心の中から、その思いを解き放していくには、まだまだ私には、時間が必要です。肉体細胞は、かろうじて、私を支えてくれています。

残された時間、自分の心の解放に、ただただ努めていこうと思います。

母の温もりを、少しでも、自分の中に広げていきたいです。

異語。

一八八、会員番号1840さんの意識

***さん、心を語ってみてください。

自分なりに心を見てきたつもりです。母に使ってきた思いを、私は、自分の中で見つめて、今、申し込みをさせていただいています。

まだまだ母に対する思いを、しっかりと心から解けていない私ですが、しかし、母という存在が、私を解き放していくのに、最も重要なキーだと、心に感じています。お母さんの反省が、本当に大切なことを、身に染みて感じています。

これからも、やり続けていくのが母の反省だと、私は、思っています。

そんな私に、この心の中から突き上がってくるのは、やはり他力のエネルギーです。他力に使ってきた思いは、凄まじいです。

凄まじいエネルギーが、私の中に、しっかりとあります。母親の反省を通して、少し、自分の中が解けた頃に、他力のエネルギーを、少しだけ感じています。

今、そのエネルギーが、突き上がってくるのを心に感じます。

そうですね。これから、私は、なぜ自分が生まれてきたのか、今、ここに肉を持っている、この今という時を、もっとしっかりと見つめていかなければならないと、今、思います。

異語。

***さん、心に培ってきた他力の世界、あなたもすごいものを持っています。すごいエネルギーを持って、今、そこにあります。学びに集えたのも、そのエネルギーを見てくださいと、あなたの計画でした。

どうぞ、田池留吉を思っていてください。

今、学びは、とても速いスピードで、二五〇年後、次元移行へと進んでいます。しかし、ホームページにも書きましたように基本は、焦らず、たゆまず、真摯な思いでということ、それに尽きるのです。

そして、喜びが本当の自分であるということ、それも基本中の基本です。

心をしっかりと見つめていってください。そして、可能な限り、セミナーに参加してください。しっかりと瞑想をして、宇宙に向けることができるあなたになっていってください。

宇宙は待っています。心の中で待っている喜びのエネルギー、力強いパワーです。しかし、それも、焦っては過去からの同じ繰り返しになります。だから、どうぞ、基本に忠実であってください。

一八九、会員番号1685さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

学びに集い、心を見てきました。今、その中で、私は語ります。

心を見てきました。そう見てきたつもりでした。しかし、私は、心を書き出しはしたけれど、その心の修正に努めています。母の思いに従って、今の生活をしていないと思います。心の中に、わだかまっているエネルギーが、たくさん、たくさんあります。

自分では、こんな心癖、あんな心癖と、自分なりに見てきたつもりです。

しかし、その心癖を、私は修正できていないんです。

母の大きな愛の中で、私は生かされていることなど、まだまだ感じられません。だから、私は、自分を修正していくことができないのかもしれないかもしれません。

心癖は分かっています。しかし、その心癖を、いつまでも、いつまでも引きずったまま、その中で苦しんでいる自分を見るたびに、本当に、これだけそびえ立っている自分があるんだなあと、今、語りながら思います。

何もしていない、何もしていない、何もできない、そんな私があるんです。

この苦しさをばかりを感じる、今日この頃です。

自分の怠慢でした。肉の中にあつて、こんな心、どうしようもない、周りにはみんなそうなんだ、そんな中で、自らをその中に沈めてきました。

やはり、私は、自分に甘い、甘い自分を感じています。意識の私を信じるよりも、肉の私を信じています。

肉の平安を求め、肉の幸せを求めている、そんな私を感じます。

異語。

***さん、せつかくご自身で、今世のチャンスを作ってこられたのに、本当にもったいないと思います。ですが、これから、ご自身の心を見て、そして、少しでも、自分が生まれしてきたことに対する責任というか、必死な思いに応えていってください。

肉を持ちながら、学びをしていくのは、難しいのは百も承知です。しかし、あなたは、自分のその肉を切望してきました。

自分を変えていきたくったからです。ただひとつ、それだけの思いで、あなたは、今世生まれ、そして学びに集ったのです。その自分の決意を、もっと自分の中で見つめていってください。

一九〇、会員番号1604さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

素直でなかった。私は、今、心に感じています。素直ではありませんでした。自分の心を語ることをしてきませんでした。思いは、色々出てきます。色々と綴ってもみましました。しかし、何一つ、私の思いを素直に語ったことはなかった。自分を素直に語るができなかった。こ

んな私の心、今、語れと言うのですか。

私は、とても、とても、苦しいです。

お母さんに、憎しみやら呪いやら、ああこの凄まじいエネルギーをぶつけてきただけです。お母さんを恋しいと思ってきただなんて、そんなこと嘘です。私は、母を呪い、恨み、焼き殺してきた、そんな凄まじいエネルギーの持ち主でした。

ああこんな私に、今、語れと言うんです。優しい思いの中で、語れと言うんです。

私は、自分に、こんな優しい思いを向けたことがあります。

それが私には分からなかったです。私は、頭で、この学びをやってきました。田池留吉に歯向かっているエネルギーも、確認してきたけれど、それもすべて頭でした。

頭で、何もかも、私のこの頭で何もかもやってきた、今、そのことを感じます。

心の中に、溢れるほどの思いがあります。まだまだ吐き出せない私の中の思いが、エネルギーとなって、噴き上がってくるのを感じます。この私は、どこまで行けばいいのでしょうか。このエネルギーのまま、どこまで行けばいいのでしょうか。

こんな私があっただなんて、まだまだ私は、信じられません。

異語。

***さん、私があなたに望むことは、セミナー会場に来てくださいということ。ただそれだけです。私があなたに望むことは、ただそれだけです。

家の中で、瞑想をして、本を読み、ホームページを見て、それでは、この学びはダメなんです。はつきりと申し上げます。セミナー会場に、あなたの肉体を運んでください。そうしなければ、あなたは、結局、自分の闇の中で、のた打ち回っているだけです。

苦しいだの、嬉しいだの、ありがとう、喜びです、そうやって、自分を誤魔化しているだけです。厳しい言葉かもしれませんが、セミナー会場に、あなたの肉体を運ぶこと、それが、あなたの一歩、いいえ、半歩を前に押し出すことだと、私は、今、あなたに伝えます。

一九一、会員番号1817さんの意識

***さん、あなたの今の思いを語ってみてください。

この学びについて、私は、色々と考えています。考えても分からないことだけれど、私は、自

分の思いを見つめる中で、色々と考えることがあります。まずは、素直でなかったこと、己が偉かったこと、そして、母の温もりをまだよく知らないこと、そんなことについて、私は今、色々振り返っています。

心を語りなさいでした。

そうですね、心の中に他力のエネルギーがしっかりと詰まっています。心を語りなさいと言われて、はい、私の心の中は、他力のエネルギーがしっかりと詰まっています、これが私の答えです。

「はい」か「いいえ」か、この学びについて、「白」か「黒」か、そう一直線に尋ねられました。心を語りなさいということはそういうことでした。だから、私は、答えます。私の中は、他力のエネルギーが詰まっています。これが私の答えです。もちろん、私の中は真っ黒です。

それでも、今、このように語らせていただける時を得て、私は、嬉しいと思います。ただ素直に嬉しいと思います。

「はい」か「いいえ」か、真っ直ぐに、私に向かって私が答えていける優しさが嬉しいです。「いいえ」その答えでもよかったです。

ただ、私が私に答えていく優しさ、これを私は、ずっと求めてきたような気がします。

異語。

***さん、どうぞ、ただただ、お母さんを思い、あなたを思つて、そして、今世、田池留吉に出会い、学びに出会つたことを喜んでいってください。喜びが基本です。喜んでいけばいいだけです。

学びに出会つたこと、真実の世界があることを肉を通して知つたこと、それが、どういうことなのか、あなたのこれからの転生の中で、おそらくあなたに伝えてくるでしょう。

意識の世界は永遠です。いつ、どこで、何に気付いていくか、そして、その気付きをそれからの自分に、どのように活かしていくか、すべては自分次第です。

これが具体的な回答なんです。目に見えない意識の世界、心で感じる世界、その中で、ただ自分を見つめていく道、あなたの中の真実の世界を信じ、そこから溢れるほどの優しさと温もりがあつたことを信じ、その本当の自分を、ひたすら信じていく道、それが意識の世界です。その本当のあなたと出会うためには、あなたの中の他力のエネルギーを、真剣に自分で見つけていかなければなりません。

そして、その術を、あなたは、もうすでに肉で知っています。

あとはただ実践あるのみです。どうぞ、ご自分を信じていってください。

学びの年月、決して無駄ではなかったことを喜べるように、あなたを大切にしていってください。

一九二、会員番号1229さんの意識

***さん、あなたの今の思いを語ってみてください。

心の中に自分を呼ぶ時、己の偉さに、本当にびっくりです。私は、こんなにそびえ立っていたのか。この私が学びに集えたこと自体、不思議なほどです。

こんなにそびえ立った私が、田池留吉という肉を知り、そして、この学びを、肉を通して知りました。それがどれだけのことなのか、自分の中でどれだけすごいことなのか、私は、今の今まで、全くそのことを知ろうとしませんでした。

己がそびえ立ってきたからです。自分というものを、全く知らずにきました。中からの叫び声、自分の中のエネルギーが私のこの身体を動かす、そして、大きな声が出る、そうやって、私は、自分を感じてきたはずなのに、私は、自分を知らずにきました。

自分の心を知らずにきました。自分を全く知らずにきたと言ってもいいでしょう。私は、今、そう思います。本当に愚かな自分でした。愚かな自分を全く知らずに、今までのうのと生きてきた、そんなことを感じています。

愚かな私に伝えてくれている出来事、あなたのエネルギーを感じていきなさい、そうやって伝えてくれていたんです。

ああでも、私の中に、その自分を受け入れていくことなど到底できない。今、私は、後ずさりをしている状態です。

異語。

苦しいときの神頼み、溺れる者藁をも縋る、そんな言葉が浮かびます。

ああでもいいんです。そうやって、あなた自身を見つめていける今という時を喜んでください。と言つても、今のあなたでは到底無理でしょう。

まだまだあなたの心の中に思いを向けることをしてくださいと言つても、あなたの今の状態では、この言葉の真意がよく分からないと思います。

ですが、あなたは語りました。自分は愚かだったと。自分は、本当にそびえ立ってきたと。

本当にそう心から思うのなら、どうぞ、この学びを、原点からやり直してください。

中途からではありません。全くの原点からです。あなたがこの学びに出会った時の自分を思い出し、そして、そこから母の反省を重ねていってください。もう自分は、肉でも充分やってきた。いいえやっておりません。

それを、あなたがあなたに伝えている、今現在のなのです。

もうすべてを捨てて、自分が生まれてきた意味を、心で分かるまで、この学びの最初からやっていくべきだと思います。

気の遠くなるような話かもしれませんが。しかし、あなたは、気の遠くなるような時間、空間を経ました。

これから残された肉の時間、必死で、その自分の歩いてきた道を振り返ってってください。ただそれだけをやっていこう、本当に自分の心で決めてください。

一九三、会員番号1576さんの意識

***さん、あなたの今の心を語ってみてください。

私の心の中を覗いてみるのが恐いんです。私の中のエネルギーを、私は、少し感じていると思います。そのエネルギーは、狂いに狂っていると思います。そのエネルギーが、自分の中から突然出てきたらどうしよう、そんな不安な思い、恐怖の思いがあります。ああそれは、私が私を信じられないからです。

そのエネルギーが、ああひとたび、表面に出てきた時に、私は、そのエネルギーをどうすることもできない。私は私を、まだ信じられないです。

そのエネルギーが自分自身だった。

狂いに狂ってきたエネルギーを、この肉を通して出すことを、私は、望んできたのに、それを抑えることしかやってこなかった今までの自分を自分だと思ってきました。

飛び出していいんです。私が、自然に飛び出すかもしれません。

でも、飛び出してよかったのに、私は、まだそれを必死で押さえつけようとしている、そんな冷たい私を感じています。

私は、やはり、この姿、形が私だと思っているから、いくら、この中から狂い出しそうなエネルギーを、今にも飛び出しそうなエネルギーを感じていても、そのエネルギーに優しい思いを、向けることができないんです。

私の心の状態です。冷たい私を感じてください。冷たい私を知ってください。エネルギーは、ますます私の中で荒れ狂うと思います。

ああでも、それをどうしたらいいんだろうか。その思いが先にたつてしまいます。

****さん、どうぞ、しっかりと母親に使った心を見ていってください。母の反省が入り口ですが、それでは、あなたに、ますます不安と恐怖の思いが募ってくるでしょう。今はひたすら母の反省です。

お母さんに使ってきた心を、一応何かに書き出し、そして、母に向けて瞑想をする時に、その思いのほうに、ふっと心に向けていってください。

そして、お母さん、そうやって呼んでください。そのことを、まずやってください。

あなたの中に必ずあるんです。お母さんに教えてもらった温もり、それがあなたですよと伝えてくれたお母さんの思い、その思いは、あなたの心の中に必ずある、それを信じて、信じて、まずは母に向ける瞑想を続けていってください。

できるだけ、時間を見つけては、母に向ける瞑想をしていってください。

私が、あなたに、今言えることは、この学びは宗教ではありません。

宗教ではないんです。あなたが、これまでに、心に向けてこられた宗教ではない、そのこ

とだけは、はっきりと言います。

あなたは、今、岐路に立っておられるのでしよう。私からすれば、何ていうこともありませんが、今のあなたは、それは、大変だと思えます。

しっかりと基礎を固めてください。基礎、つまり、知識、そして母親の反省と瞑想、その実践を、まずはやっていってください。

一九四、会員番号1022さんの意識

***さん、心を語ってみてください。

私の中に、何があるのだろうか。自分の心は敏感だと思ってきました。心に色々なものを感じ、とても敏感だと思ってきました。確かに、敏感です。色々なものを感じます。ああそして、学びの知識もしっかりとあります。私は、しっかりとこの学びをやってきました。母親の反省も、瞑想も、すべて言われたことは、きちんとやってきました。と私は、思っていました。しかし、私は、間違っていました。私の肉がありました。私の肉が、真っ先にありました。肉

の***がりました。その中で、私は、この学びをやってきたんです。土台が違っている、そう一言で言えばそうです。***という土台を崩していくことができません。

という肉を崩していくことができません。という立派な、立派な私が、どうしても崩れないんです。そこに、私の苦しさがあります。

そうなんです、この壁があるんです。***という壁があるんです。

だから、私の心は敏感なのに、その壁が、すべてを遮っています。

こういうことだったんですね。意識の世界を自分の中で、本当に変えていくには、転回、その肉から意識への転回、意識の転回、本当にそれに尽きます。

いくら、何を感じても、どれだけチャネリングができようとも、田池留吉のメッセージを受けても、心が敏感でも、私の基本は肉、基盤は肉。

だから、私の中から次から次へと疑問だとか、疑念だとか、そういうものが出てくるんです。中心棒、そう、私の中の中心棒は肉です。中心棒を変えずに、私は、その周りを、ああでもない、こうでもない、苦しみの自分を、ただただ手をこまねいて見つめていただけでした。

異語。

***さん、あなたの中にあるエネルギー、そのエネルギーがあなたの肉体を動かす、そういう体験を、何度も、何度も重ねてこられました。

もちろん、意識も受けられると思います。しかし、それでこの学びが分かった、真実の波動の世界に通じ合える、そうではありません。

そうではないから、これだけの時間がかかったのです。肉から意識への転回、そう容易くできるものではありません。しかし、あなたが、学んでこられたことすべてが、無駄ではなく、それを活かせるような学び方、それがあつたんです。もうお分かりですね。己の偉いあなたを崩していくことです。その崩し方は、ただただ母の温もりです。母の温もりとは、単に優しいとかそういう類のものではありません。

あなたの根底から覆すような温もりの世界、その世界を、あなた自身が感じてごらん下さい。一も二もなく、感じた瞬間から変わっていきます。そういうことを、私達は、学んできました。しかし、あなたにも、これからの転生があります。

その中で、自分の狂ってきた、狂い続けてきたエネルギーを見つめる転生がある、それだけが本当に自分にとって、大きな愛なんです。

それが母親の温もりが心で分かれば、自然とあなたの心に響いてきます。

学びは理屈ではありません。学びに集っている人の大半は敏感です。

しかし、心で分かるということになれば、さあどうでしょうか。

難しいけれども容易い、容易いけれども難しい、そういう学びを、今世、私達は学ぶチャンスを得ました。

しかし、どんな時も基本は喜びです。どんな自分も、どんな今の状態でも、喜んでいけばいいだけです。そう思えば、簡単な学びではないでしょうか。

一九五、会員番号1166さんの意識

***さん、心を語ってみてください。

自分の中に、たくさん、たくさん思いを詰め込んできました。心が苦しいです。これだけ思いを詰め込んだ私が苦しいと叫んでみても、どうすることもできなかった今まででした。

そして、私は、今、ようやく、自分の中を語っていけるチャンスをもたらしています。

心を語ることが喜びだとは、まだまだ思えないけれど、心を、自分を語ってみたいと、私は、今、自分の中を見つめています。

ふっと自分を見つめたとき、本当に真つ黒な、真つ黒なヘドロのような私の世界を感じます。ああ、これが他力の世界なのかなあ、今、私は、ふっと思いました。

他力の神々をつかんできた、心の世界、私は、自分で自分をこんな真つ黒にしてしまったんですね。そんな私を感じます。

お母さんを思うとき、ふっと、お母さんを思うとき、そんな自分がお母さんに対して、どれだけの思いを使ってきたかなんて、とても、口では言えないほどの思いを使ってきた、エネルギーを流してきた、母にそのエネルギーをぶつけてきた、ただただそれがあります。今世の私だけをとってみても、すごいです。母に歯向かってきた、背いてきた思いを今、必死で私は、こらえています。

しかし、ふっとお母さんを思うとき、そのこらえてきたものが、ふっと、どこかで緩むんです。そうすると、私の中は、何だか、少しだけ軽くなります。これだけ母に背いてきたエネルギーが、お母さんと思うだけで、何だか少し軽くなっている自分を感じるんです。

ああでも、私は、まだまだよく分かりません。それが何なのか、確かに私は、何かを感じているけれど、それがいったい何なのか、まだまだ私は分からない、それが私の現実です。

異語。

***さん、焦らなくてもいいんです。そうやって、お母さんを思う瞑想を続けていってください。あなたが語ったように、あなたの中には、真つ黒な、真つ黒な塊が、ずっしりとしつかりとあります。それを少しずつ、紐解いていくのは、お母さんを思う瞑想です。

お母さんに使ってきた心を、まずは書き出し、そして、お母さんを思っただけでいいです。あなたの頭を動かさなくていいんです。ただただそのことを繰り返していいんです。

あなたが意識の流れの中にあることを、信じられたなら、この意味が分かります。

あなたの肉は、何もできません。ただ、ここで言われたことは、素直にやってみてください。そうすれば、あなたの中に、きつと変化が起こってきます。早くとか、何とかとか、これはどうということとか思っているのは、あなたの欲です。

ただただ素直にやってみてください。そうして、瞑想をしていく中で、あなたの口から、何か異語というか音というか、そういうものが出てきたら、それも素直に、その口から発してください。

異語は、あなたの中の心の叫び、そのほんの、ほんの一端かもしれません。心を開いてくださいと、あなたがあなたに伝えてくる、その表れ、そういうふうにとらえ、どうぞ、瞑想を続けていってください。

***さん、心を語ってみてください。

心の中に、溜まった思いが、たくさん、たくさんあります。何から語っていいのかわかりません。私の中には、欲の思いがたくさんあるんです。私は、欲でいっぱい。欲で生きてきました。欲だらけで生きてきました。心の中を覗いてみると、欲の思いが、どんどんどんどん出てきます。

どれだけ何をされても、私は、欲の思いが膨らんでいくんです。

これだけの欲を詰め込んできたのかなあと、今更ながら驚いています。

心の中に欲の思いが、たくさん、たくさんある、そのことだけを、今、感じるんです。だから、何を見ても、何を聞いても、私の心に嬉しい、ありがとう、そんな思いは出てきません。

してくれれば、してくれるだけ、また違う方向から、欲の思いが膨らんできます。そんな毎日を繰り返しています。

だから、私は、とても苦しいです。自分の心を覗くとき、本当にお粗末な自分を感じます。

だから、私は、自分の心を見るのが嫌なんです。

私は、自分が大嫌いです。こんな私は、大嫌いなんです。自分が愛しいなんて、到底思えない私です。

異語。

お母さんの反省をやってきましたか。お母さんに使ってきた思いを見ってきましたか。あなたは、この学びについて、どれだけやってきたか、自分に問うてみてください。

形では少しやってこられたかもしれませんが。しかし、あなたの中を感じた私の思いとしては、あなたは、この学びについて、何もやっていないのも同然です。

どうぞ、最初から始めてください。お母さんの反省からしてください。お母さんに使ってきた心を、ノートに書き出し、その思いに向けて瞑想を続けてください。また、学びに集った動機を振り返ってください。

自分自身が培ってきたエネルギーを、あなたの心で感じていくことをしてってください。

学びは人生ですと言っても、あなたの年齢からすれば、この意味がまだよく分からないかもしれません。しかし、あなたは、自分で、この学びをしていこうと決めてきたんです。自分

の心を見ていってください。自分のエネルギーを感じていってください。

どうして、自分は、これだけの欲を膨らませてきたのか、真剣に自分と向き合ってください。自分の心は自分でしかどうすることもできません。あなたが苦しんでいくのも、あなた自身、あなたが喜んでいくのも、あなた自身です。

そうなんです。甘えていては、この学びはできません。ただ真剣に自分と向き合う、なぜ、生まれてきたのか、なぜ、あなたは、今そこにいるのか、その原点に立ち返ってください。

一九七、会員番号1765さんの意識

***さん、あなたの今の思いを語ってみてください。

お母さん、私の心の中にどんな思いがあるか分かっていますか。

私は、あなたを憎んで恨んできました。母親の反省ができないのは、この思いがあったからです。私は、母の意識に逆らってきました。母を殺し、呪い、憎んできたこの思いを、まだまだ自分の中から解き放つことができない。だから、私は、母親の反省が進まないだと思

ます。

母の温もりを心に感じたいと思いつつも、この思いをしつかりと心に抱えています。

お母さんが嫌いでした。お母さんを呪ってきました。お母さんを殺してきました。どんなに私がこの心の中で苦しんできたか。母が私を苦しめてきた、私のすべてを奪ってきた母が許せなかった、私の過去からの思いです。私は、そんな過去世を、たくさん、たくさん抱えています。そして、今世、今の母親に生んでいただきました。

私の今世は、とても恵まれた状態です。しかし、私の心の中は、今、語った通りです。肉的には恵まれていても、私の心の中は、とても、とても苦しいです。母に心底、甘えていけない自分があります。

自分の中に母との接点を見出せないまま、今に至っています。私と母の間には、私がつてきた、大きな、大きな、部厚い壁があるのを、私は、心で知っています。

今、どこから語っていけばいいのかわからないけれど、そんな私が、心の中でもがいているのを、ただただこの肉に知らせたかった。今、心を語ると、私は、そんな思いが噴き出します。

***さん、あなたが語ったように、そうです、あなたの心は荒れ狂っています。表面上は、

それを抑えているだけです。あなたは、肉的に恵まれています。肉では、喜び、幸せ、そんな中にあると思います。

だからこそ、あなたは今の自分の心をしっかりと見つめるために、そういう環境を選んだのです。分かりますか。肉で恵まれていても、あなたの心は苦しい。そんな苦しい心を抱えていることを、あなたは、あなたに知らせたかったんです。

肉で整っている環境なのに、なぜ、私は、この学びに繋がったのか、あなたは、自分の中でずっと、ずっと疑問を感じていませんかでしたか。

今、あなたが、あなたを語ったように、あなたの中は、肉的な環境とは裏腹で、とても、とても苦しくて、暗くて、自分をどうすることもできない状態です。私は、はつきりと物申します。どうぞ、どうぞ、ひたすら、お母さんに使ってきた心を、誤魔化さずに、ノートに書いていくてください。書くというよりも、書きなぐってください。

まだまだあなたは、表面的な思いしか、出していないと思います。

今、語ったように、あなたの中に母を恨む思い、呪う思い、母を殺したいほど憎んできた思い、たくさん、たくさん、詰まっています。

どうぞ、お母さんに向けて、その思いを確認していつってください。

異語。

***さん、あなたは、お母さんの温もりが分からないと言っておられますが、あなたの中に、お母さんの温もりは確かにありますよ。しっかりとあります。気付いてください、私達の思いに気付いてください、そうやって、母の意識も、田池留吉、アルバートの意識も、そうやって、あなたに、いつも、いつも、語っているんです。

どうぞ、素直に、自分の優しい思い、温もりのある広がる世界を信じていってください。

肉は、愚かです。しかし、あなたは、その肉を、まだまだ誇りたい思い、肉の自分を崩せない思いがあるんです。それはなぜでしょうか。

肉を離せば、あなたは、またあの真っ暗な底なし沼の中に落ちていくことを、知っています。やがて、あなたも、その肉を離していきます。どうぞ、自分の心と、少しでも、真向かいになつてください。あなたの中は待っています。暗く苦しく沈んできたあなたの中に、ほんの少しの光でもいい、届けてあげてください。あなたがあなたに届けてあげるんです。優しいあなたがそこにあることを信じていってください。

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

苦しい中を生き続けてきた私は、今世の母の思いを受け、一つの肉をもらいました。

ああしかし、肉をもらった私なのに、自分の思い通りに、これまでの時間を過ごしていませんでした。肉、肉で過ごしてきた我が人生を、今、振り返っています。心の中に、自分を振り返るとき、本当にたくさんの過ちを繰り返してきた、そんな自分だったこと、それだけが心に響いてきます。

お母さん、申し訳ありません。私は、自分に対して、まだ何も約束を果たしていない自分を感じます。

ああそれでも、今、ふっと自分を思い、瞑想をすると、「今からでも遅くはありません。あなたが自分に思いを向け、そしてあなたの歩いてきた時間を振り返り、母の思いを感じてください」。そうやって、お母さんの思いが伝わってくるような気がします。

心の中を振り返ると、私は、とても、とても言葉にはできないほどの凄まじいエネルギーを流してきました。

周りをみんな殺してきました。八つ裂きにしてきたと言つてもいいでしょう。気に食わないものは、すべて、即、殺してきました。そんな私のエネルギーでした。

そんな私に、今、心を語る時間が残されています。自分と向き合つていこう、ようやく、私は、今、自分の中で、少し思えるようになりました。それが、嬉しくて申し込みをさせていただきました。

異語。

***さん、田池です。

そうです。あなたは、あなたを振り返つていってください。あなたの過去も未来も、すべて、今の一点にあります。

今をしつかりと見つめていってください。お母さんの意識の中で、あなたは、どれだけ苦しみ続けてきたことでしょうか。

それも事実ならば、温もりの世界も、喜びの世界もあなたの中で、確かに待っている世界です。そして、その世界を、あなたの中で広げていけるのは、あなたご自身です。私、田池留吉のほうに心向け、しっかりと心を見つめていってください。

チャンスチャンスを悉く潰つぶしてきたあなたですが、これからの時間、しっかりと自分と自分の間で、ただただ心を見つめ、自分のエネルギーを感じ、そして、母の思いを感じ、喜び、喜びで時間を過ごして行ってください。

どんな自分も受け入れていける、そんな喜びの世界が、あなたの中にも確かにあります。それを信じてやって行ってください。

一九九、会員番号1014さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

私の中に何かあるのか、よく分かりません。心を見ることを、始めていますが、まだまだです。というのは、私には、この学びに対しての知識もあやふやなところがあります。

しかし、今、私は、私を思うとき、ああ私も、自分の中に、本当の自分と出会いたいという思いを感じている、そんな私がいることを感じます。

この思いに素直になって、自分の心を見ていく、そうすることが、この学びなんです。今、

私は、自分を語るとき、そのような思いが伝わってきます。

お母さんに、私を生んでいただいたことを、どう思っているのか。私は、もう少し、自分で深く見つめていきます。

私は、これまで、お母さんに対して出してきた思いを書き出してはみましたが、なぜ、そんな思いが出てきたのか、私の中でよく分らないところがあります。また、母を殺してきた、憎み恨んできた、そういうことを、見たり聞いたりしますが、私の中も、そんなにすごい思いがあるのか、まだまだ私には、実感がありません。

ただ、自分が他人に対して出している思いというか、自分の心は苦しいっていうか、そういうことは分かります。

そのことと、母親に対して、本当にすごいエネルギーを出してきたというところと、まだ、私は、自分の中で結びつけていない、そんな感じ です。

異語。

***さん、焦らなくてもいいですけど、しっかりと本を読み、ホームページを見て、可能ならば、UTA会に参加してください。

この学びの基礎を、まずしっかりとらえてください。

あなたにも、生活があります。日々の暮らしがあります。そんな中で、この学びを継続していくことは、確かに難しいと思います。

それほど、肉、形を本物とする思いの中で、私達は、ずっと存在してきましたのです。そのエネルギーの強さを、これから、あなたも、少しずつ心を見ることにより、瞑想をすることにより、そして、日々の生活の中で、感じていくと思います。

しかし、いずれ、あなたも、自分の中に本当の世界がある、本当の自分が存在している、そういうことを体験される時がやってくるでしょう。

焦らずに、日々、楽しみながら、喜びながら、しかし、ここで伝えていただいた基本をしっかり持って、毎日を送ってってください。

それぞれに、それぞれの道があります。その中で、自分を見つめるそのチャンスが必ずやってきます。その時に、しっかりとご自分を見つめ、この学びと出会ったことを、本当に心で喜べるあなたであってください。

そのような学び方をしていてください。

そして、ポイントをひとつ。

この学びは、心を縛る学びではありません。心を解き放つ学びです。

ここにポイントを置いて、あなたなりに、精一杯学んでいってください。

二〇〇、会員番号1597さんの意識

***さん、心を語ってみてください。

心の中に、たくさんの私を抱えながら、今、私はここに存在していることを感じます。その感じている私は、私を裏切り続けてきました。自分を冷たく突き放し、切り捨ててきました。肉の私だけが幸せであればいい、肉の私が、この肉の喜びを手に入れられればいい、そうやって、私は、たくさんの私を切り捨ててきた。心の中から切り捨ててきた冷たい、冷たい私と、今、向き合っています。

母の反省を通して、こんなに冷たい私があつたのか、こんなに冷たい波動しか流してこなかった私があつたのか、そんな私に驚いています。

しかし、母は私を受け入れてくれました。あの憎たらしい肉の母を見ると、そんなこととも思えません。今、瞑想をして母を思うと、こんな私を、こんな冷たいどうしようも

ない私を受け入れてくれた母の思いを、感じます。

ああこれが、私の本当に望んできたことでした。

この思いを心に抱え、私は、これから存在していこうと思います。

どんなに、どんなに私を素晴らしいと誇っていても、この頭をどんなに素晴らしいとしても、私には喜びではありませんでした。

私の中には何も残らなかつた今、心の中に、空しさが寂しさが広がるのを感じつつ、そのことを確認しています。

お母さん、ごめんなさい。何て愚かだった私でしょうか。ああそれでも、これからの時間、まだ私に残されている時間があると思います。

その時間の中で、私なりに心を見て、田池留吉、あなたの言うことを、心で感じられる私になつていきたいと思います。

***さん、時間を無駄にしないでください。これからの時間を無駄にしないでください。あなたの中には、もう色々なことに心を使って、本当に愚かだったという思いが広がっていると思います。

これから、あなたは、本当にあなたを見つめていくことに、時間を過ごして行ってください。

そして、あなたの人生、自分の中で、合格点が出せるようなあなたになっていってください。私は、その日が来るのを待っています。

たくさん意識を、あなたも感じておられるかもしれません。しかし、その基盤を変えていくこと、そうしないと、あなたは、せっかくの自分の計画を、自分自身で潰していくと思います。どうぞ、しっかりと自分を見つめ、自分のエネルギーを感じ、そんな自分に優しい温もりの思いを伝えてください。

あなたの周りには、学びの仲間がいるでしょう。

その仲間達とともに、本当の仲間として、心を開いて、ともに歩みを進めていってください。

二〇一、会員番号1250さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

自分の心を抑えに抑えてきた心の苦しさを感じます。お母さん、ごめんなさい。自分を抑えてきました。お母さんの肉を見て、私は、この思いを、どれだけあなたにぶつけてきたか、

それでも、私は、肉で抑えてきました。

思いを出しなさい、お母さんは、そうやって、私に伝えてくれました。その優しさと温もりを、私は心に感じながらも、己の偉い私は、そして、形を重んじる私は、自分を小さく、小さく、閉じ込めてきました。

そんな私が、哀れでなりません。哀しくて涙が出ます。

今、心を開いていきなさい、そんなチャンスをもたらしているように思います。心を見つめて、自分の中を洗いざらい見つめて、そして、それを自由に解き放していける時間を、私は、ただいてきました。そんな中であつたんです。

私は、今、お母さんに思いを向けたとき、本当に幸せの中にあつた私を感じます。その幸せを、私は、自分で潰していったんだ、そんな冷たい私があつたんだ、お母さん、ありがとう、申し訳ない、そんな思いが、湧いて出てきます。

異語。

***さん、そうです。あなたの心を解き放つために、あなたは、お母さんから、その肉体をいただきました。今世の時間をいただきました。そして、学びに出会い、田池留吉の肉

と出会いました。

どうぞ、私のほうに心を向け、あなたの思いを、しっかりと見つめていってください。

どんな思いでもいいんです。どんな思いを広げていっても、あなたは、自分自身を許しています。自分自身を愛しています。愛しているからこそ、あなたは、自分に肉という形を持たせたのです。

その母の思いを、あなた自身感じることができると思います。

どうぞ、優しいあなたを信じていってください。いいえ、もう、優しいあなたは、あなた自身感じておられると思います。

その思いを、自分の中で、少しずつ、少しずつ、広げていく、そんな学び方をしていってください。

たくさん意識達が待っています。あなたの中にも、たくさん意識達、そして、暗黒の宇宙が待っています。その意識達、宇宙に、少しでも、温かい温もりと、優しい思い、広い、広い世界が本当の私達だ、そういうようなメッセージを、あなた自身に伝えていけるようなあなたであってください。

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

母親の反省を通して、自分の醜い心を、たくさん、たくさん見させていただきました。そして、私は、セミナー会場で、自分のエネルギーを感じました。そのような体験があつて、私は、今、この学びのことを振り返っています。田池留吉を振り返っています。

そうすると、私の中には、嬉しいという思いと、くそつたれという思いが、同時に湧き起こってくるんです。嬉しいっていうのが、私の本当の思いなんですね。くそつたれ、これは、他力の思いなんですね。

そう、それは、頭では分かっています。ああでも、私は、そのくそつたれをしっかりと握っている、そのことに、まだまだ気付いておりません。他力のエネルギーが、しっかりと心の中にあります。

欲を満たしてくれた他力の神々にひれ伏す思いが、たくさん、たくさん残っている、そんな自分を、今、感じています。

そんな私に、母は言いました。

「あなたの心の中に、素直な思いがあるんですよ。その思いを思い出し、いきなさい。私は、そうやって、肉を用意しました。」

あなたが、私から生まれてきたのは、自分の素直な思いに気付いてほしいと、あなたが言ってきたからです。あなたの中に、そんな思いがあるのをしっかりと信じていきなさい。」

母親の反省を通して、私の中に伝わってくる母の思いがあります。

その思いを信じ切れずにいた私は、本当に愚かです。

今、私は、私を語るとき、ああこんな思いが、自分の中にあつたんだ、そう思うと、少し嬉しくなりました。

異語。

***さん、はい、しっかりとあなたの心を見ていってください。他力の神々にひれ伏してきたあなたです。欲の思いで、他力の神々のエネルギーを求め、求め続けてきたあなたです。

しかし、母が言ったように、あなたの中に素直な思い、本当の自分を信じていこうとする強い思いがあるんです。その思いを、どうぞ、しっかりと信じて、その思いだけを見つめて、母親の反省、他力の反省、母を思う瞑想、田池留吉を思う瞑想、宇宙を思う瞑想をしていって

ください。

時間の許す限り、瞑想をしていってください。

自分に思いを向け、心の中にお母さんを、本当に心の底からお母さんと呼んできたあなた
のたたくさんの意識達とともに、田池留吉のほうに、思いを向ける、ただただそのことを、やっ
ていってください。

二〇三、会員番号1312さんの意識

***さん、はい、あなたの胸の中央部分に意識を向けて、あなたの今の思いを語って
みてください。

はい、今、そちらのほうに心に向けてみます。

はい、お母さん、申し訳ございません。私は、あなたの思いを、何度裏切り続けてきたことか。
今、私は、あなたに思いを向け、瞑想を続けています。他方のエネルギーの中で、私は生まれ
てきました。生まれては死に、死んでは生まれて、そんな繰り返しを続けてきました。

そして、ようやく、今世を迎えました。お母さん、あなたに思いを向けて、私の思いを語るとき、他力のエネルギーの中にあつた私を、これまで、本当に待っていてくれたことを感じます。

他力のエネルギーの中に生き続けてきた私の心の中に、あなたの思いを、少し感じる事ができます。

お母さん、ありがとうございます。己の偉い私でした。肉を自分だと信じてきた私でした。今もまだ、その中にあります。しかし、私は、母に思いを向けることを学びました。

母に思いを向けて、私は、今、このように語らせていただけること幸せです。私の中に、たくさんの間違つてきた私があることを、あなたに伝えてくれました。その通りです、私は、自分に伝えることができずに、ずっと存在してきました。あなたの思いを伝えることができなかつた私を、今、感じています。それが、私の胸の奥のほうから、込み上がってくる思いです。私達に、思いを伝えてください、伝えてください、そんなたくさんの私の思いが、ここにあるんです。

はい、今、それを感じて、とても嬉しいです。込み上がってくる思いは、私の思いでした。お母さん、ありがとうございます。

異語。

***さん、田池留吉です。心の中を、もっと、もっと見ていってください。他力の中に沈んできたあなたの意識の世界です。そんなあなたが、母の思いを少し感じたのでしょうか。あなたの中に、優しい思いが広がっているでしょう。私は、そのことを嬉しく思います。

どうぞ、どうぞ、学び続けてください。心の中を、ずっと、ずっと見ていくんですよ。限りがありません。あなたが、たくさん、連なって出てくるでしょう。そのあなたに、優しい思いを伝えていってください。

そうやって、あなたの時間を過ごしていってください。田池留吉は、あなたの中に語ってくる優しい温もり、母の思いです。

どうぞ、私に心に向け、あなたの中を語っていってください。そんな時間を過ごしていってください。

二〇四、会員番号1531さんの意識

***さん、心を語ってみてください。

自分の思いを見つめてきました。私なりに見つめてきました。田池留吉、アルバート、そしてお母さんのほうに心を向け、私はやってきました。そう思っています。しかし、はい、分かっています。私の前に、まだまだ厚い壁が立ち塞がっています。

田池留吉、アルバート、お母さんを思うとき、その厚い壁を、私は、心に感じます。いくら心を見ても、瞑想をしても、その厚い壁が薄くならない、こんな私、もう嫌だ、学びから心を離しかけたときもありました。

しかし、私は、素直ではありませんでした。私の中に、本当にこの学びに出会ったことを喜び、本当の自分に出会いたい、そういう切なる思いがあることを、知っています。私は、その思いに素直ではありませんでした。

厚い壁が私自身を邪魔していたんですね。厚い壁を取り除いていくために、私は、生まれてきました。今世、少しでも取り除いていこうと生まれてきたんです。その思いに、私自身応えていきたい、今、そのように思います。

苦しい中を生まれてきた私でした。そうです、そんな私に、今、ようやく、少しだけ温かい思いを感じます。私の中から感じます。変っていきましょ。たくさんの私が待っています。

そんな私に優しい、優しい思いを向けていきたい、今、私は、心からそのように思います。

異語。

***さん、何度も言います。あなたが、今生活をしておられる場所は、大変な場所なんです。もちろんそこだけではありませんが、今、あなたが生活をしている場所、その場所でのこの学びをして、継続していく思いは、くじけそうになるかもしれない。ただ、その場所には、今世、学びと出会い、しっかりと心を見ていこう、本当の自分と出会うことを目指して学んでいこうとする仲間達がいると思います。どうぞ、その仲間達と歩みをともしていってください。

誰が一番、誰がよく分かっている、そういう仲間ではありません。

みんな、みんな、心をひとつにして、それぞれの転生に繋いでいく、そして、次元移行をする二五〇年後に繋いでいく、そんな仲間達だと思います。

どうぞ、どうぞ、心をひとつにして、歩みを進めていってください。

大変な場所ですけれど、大変なだけ、心に少しずつ、喜びや温もりが感じられれば、その喜びは、ひとしお、心に大きく響いてくるのです。

どうぞ、自分の思いを、大切にしていってください。そして、自分の中に中心棒を確立する道を歩んでいってください。お母さんの温もりを心に広げながら、焦ることなく、たゆまずに、喜んで、中心棒を確立していってください。

二〇五、会員番号1354さんの意識

***さん、心を語ってみてください。

他力の中を生き抜いてきた私です。他力のエネルギーに縛られてきた私です。縛ってきたのは私です。そんな私に、母は肉をくれました。

そのことを、私は、軽く受け止めてきました。私は、すべて、欲で生きてきました。欲でいっぱい、欲の塊でした。そんな私も、今、このようにして、思いを語れることができます。

お母さん、ありがとう。素直な思いで、お母さんに心を向けていきます。まだまだ、欲がいっぱいです。何から語っていけばいいのか分からないくらい、欲だらけの私です。

でも、こうやって、瞑想をしながら、自分と語る時間、そして自分を思う時間、それが私には、

今、嬉しいです。

身体も、あちらこちら、故障が出てきます。当たり前ですね。今世だけでも、すごいエネルギーを使ってきました。そんなエネルギーの中にあつた私です。それをみんな私が受けてくれていたんですね。私は、そんな私に、どれだけの優しい思いを流してきたか、そんなこと、考えたこともありませんでした。今、私は私を思い、ふっと優しい私を感じます。

ああ、私は、この優しさの中にあつたんだ、そんな思いを感じます。

欲しいっぱいの私は、私ではなかったんですね。こんな欲だらけの私を、よく、ここまで繋いできたなあ、今、私は、そのように思っています。

異語。

***さん、他方の思い、他方のエネルギーは、しっかりとまだ心の中に残っています。残っていますが、今、あなたが少し嬉しいと感じたその思いを、大切にしていってください。大切にしていきましょう。

あなたのご主人にも、その優しい思いで、接してください。

言葉ではなく、態度ではなく思いです。それが、言葉なり、態度なりに自然と出てくるのです。

どんなに優しい言葉をかけよう、優しい態度を示そうと思っても、それはそうではありません。あなたが、あなたの中にある優しさ、温もりを信じて、そちらのほうに心を向け、日々喜んで生活をしていけば、何気ない中で、その優しさが、にじみ出てきます。そうやって、ご主人と仲良く生活をしていってください。もちろん、あなたの周りの人達にもそうです。何もこの学びをといてではなく、ただあなたが、あなたの中を見て、あなた自身の優しさ、温もり、そういうものが、自然と出てくればいいのです。

そうやって、あなたは、生きていけばいいんです。簡単なことなんです。他力の中をずっと生きてくれば、そんな簡単なことができにくくなりました。しかし、今世、あなたも、お母さんから肉をいただき、本当の自分は優しいんだ、そういうことを知ったと思います。

まだまだ道遠しかも知れませんが、そうやって、喜びながら、日々の生活をしていってください。そして、あなたが過去から心を繋いできたように、これからは、さらに厳しくなりませんが、今世、感じた思いを、きつと、きつとあなたの転生に繋いでいけることを、私達は待っています。

***さん、あなたの心を、今の心を語ってみてください。

他力のエネルギーを、私は、見てきたつもりです。母の反省も、私は、してきたつもりです。今、ここに至って、その自分を振り返っています。

私は、やはり、自分に甘かったです。学びを甘くとらえていました。

自分の心の中には、他力のエネルギーがしっかりと詰まっていることを感じます。母に使った思いも、まだまだその見方が甘かったです。

しかし、今、自分の思いを語りなさいと言われたとき、やはり嬉しいとそのように、伝えさせていただきます。

嬉しいんです。こんなに間違った私でも、今ここに許されて存在していること、そして心を見つめる時間が残されていること、それがとても嬉しいんです。

私は、私に正直に生きていきたいと思えます。これから残された時間、自分に誠実に、素直に、正直に生きていきたいと思えます。

これからの人生を、時間を、そのような思いで過ごしていこうと、今、私は思っています。

だから、心の中から出てくる思いは、嬉しい、ありがたい、よかった、そんな思いです。

この歳になって、今、この状態になって、私は、ようやく自分からありがたいと伝えていただきました。それがとても嬉しいということです。

肉の私は、愚かでした。本当に愚かでした。肉の私は何もできませんでした。できると思ってきました。何でも肉でできると思ってきました。

傲慢でした。その思いがとても傲慢でした。

そのことに少し気付きました。ありがとうございます。

異語。

***さん、自分で気付かれたこと、大切にしていってください。

自分で気付いていくことが大切です。自分の心を見て、瞑想をして、そして、自分に思いを向けて、優しい自分自身を感じて、そのような時間に、これからの時間を使っていってください。

周りの色々なこと、あなたには、しなければならぬこともまだまだあると、自分では思っておられますが、私、田池からすれば、そんなことは、本当にどうでもいいことなんです。

あなたは、ただあなたの心を見ていく、そのことに時間を費やしていつてくださいます。

そんなにも、あなたにも時間は残されていないと思います。

まだ自分は身体も健康だし、どこと行って悪いところはないと思っておられるかもしれませんが、三年、五年、十年などあつという間に過ぎていつてしまいます。これまでのあなたがそうでしたでしょう。

私は、肉の時間など、あつという間に過ぎていくことをお伝えします。

心を見ていくことの大切さ、瞑想をすることの大切さ、そして、生まれてきたことを喜んで、喜んで、自分の心で感じていけるこれからにしていつてくださいます。田池留吉、アルバートを思い、あなたは、あなたを見ていく、ただそのことに専念していつてくださいます。

二〇七、会員番号1714さんの意識

***さん、心を語ってみてください。

はい、お母さん申し訳ございません。私は、この歳になつても、なぜ私がこの肉を母から

いただいたのか、まだしつかりと心で感じることはできません。そんな私の人生でした。ああ、私の人生はとても苦しかったです。確かに色々な面で恵まれてきました。私は、肉的には、何の不自由もございません。しかし、私は、自分の心を縛って生きてきました。本当の自分を知らずに、そう、私は、偽物の自分の中で、喜びと幸せを求め続けてきた意識です。今世も、私は、過去と全く変わらずに、そのまま肉の時間を過ごしてしまいました。

今、ここにきて、私は、ふつと母を思うことが多くなりました。母を思うと、私の中には、肉の母に対する思いが、色々な思いが出てきますが、そんな私を、母の意識は受け入れてくれたんだ、そういうことも感じます。

お母さん、お母さんと素直に呼んでこなかった私でした。肉の喜びと幸せの中に、私の喜びと幸せがある、そのようにして、ずっと、ずっと生き続けてきた私に、今世こそ、その間違いに気付いていきなさい、母はそうやって、私を送り出してくれたんですね。

なかなか、そのことに気付けずに、今の今までやってきた私です。こうやって、語らせていただけること、何よりの幸せです。

私の喜びと幸せは、私を見つめることにありました。心が外に、外に向いてしまった私の中には、とても暗くて、厳しくて、悲しい、そんな私がたくさんいることを感じます。私は、まず私を知ることでした。お母さん、申し訳ございません。

異語。

***さん、ご自分の心を、少し語られました。あなたの中には、言い尽くせない思いが、まだまだたくさん詰まっています。あなたも感じておられる通りです。しかし、そのことを嘆かずに暗く落ち込まずに、そんな自分を優しく見つめていってください。

優しい、優しいあなたが本当のあなた、そんなあなたの目から、狂ってきた苦しい辛い自分を見つめてください。いくらでも見つめていけると思います。

もう、そのことに、できる限り、あなたの時間を費やしていってください。どこからでもいいです。何からでもいいです。

お母さんを思って瞑想をして、自分を思って瞑想をして、もうそんな時間に、できる限り、費やしてください。

たくさんの方があなたが、その心の中で待っています。優しい、優しい思いを、たくさんの方の意識達に向けていってください。それをお伝えします。

****さん、心を語ってみてください。

凄まじいエネルギーを奥底に秘めてきた私です。心を見てきたつもりです。お母さんに思いを向けてきました。田池留吉に思いを向けてきました。心の中から、くそつたれの思いを感じ、私は、そのくそつたれの思いを見つめてきました。しかし、まだまだです。まだまだ私の中に、くすぶっているくそつたれの思いです。

どれだけ心を見つめても、このくそつたれの思いが出てくるのです。そんな私です。

ああしかし、私は、母を思い、田池留吉を思う、この時間を許されています。そんな私は、幸せだと思います。心の中の苦しさは、私が作ってきた世界です。欲いっぱい私が作ってきた世界、他力の神々を求めてきた結果です。そんな私を私は、自分で包んでいく、そのことを学ばせていただきました。

自分に誠実に生きなさい。自分に素直に生きなさい。そうやって、母は私を生んでくれました。誠実に素直に生きてきたか、今、私は、自分に問いかけます。

お母さん、ごめんなさい。問いかけにそんな思いが出てきます。

誠実に素直に生きていきなさい。お母さんが私を生んでくださいました。その思いは、私の思いでもあります。いいえ、私の思いでした。

今、その思いに心を向けます。語りながら向けてみます。

はい、私の中に優しい私がいた。しかし、私は私を、大きくそびえ立たせたり、小さく落ち込ませたりしてきたんですね。全く何も分からなかった私でした。そんな私が、今世、こんな学びに集えたこと、本当に幸せだと思えます。汚れに汚れ切った私にも、こんな幸せな時間があるんですね。今、自分を思い、自分を語り、そんな思いが心に響いてきます。

そびえ立ってきた私、己一番のエネルギーを広げてきた私、本当に愚かでした。愚かな私を見つめながら、これからも、少しずつでも、そして、半歩でも前に進めるように一日、一日を大切にしていきたいと思えます。

異語。

***さん、自分を小さくせず、自分を大きく見せずに、ただありのままのあなたを見つめていけることを喜んでいってください。

あなたは、あなたを見つめていける、そんな時間が与えられている、それが喜ぶなんです。

ただただ自分を見つめていけるのです。どんな自分でもよかつたんです。温かい、温かい優しい広がりゆく世界、そんな中にすでに包み込まれていたんです。

目を閉じて、お母さんを思い、田池留吉を思う、そして、自分のこれからの転生を思う、そこには、ただただ喜びが広がっていくだけです。

自分の転生を思う、自分の来世を思う、過去からの自分とともに、未来の自分を思う、そんな今の時間を大切にしていってください。

転生…、喜びで、喜びで思いを向けていってください。

二〇九、会員番号1532さんの意識

***さん、あなたの今の思いを語ってみてください。

心を見ようと私はしてきました。そして、私は自分の心の奥底を見ようと、今、もがいています。奥底の思いを見ようとしているんです。これは、欲でしょうか。私には分かりませんが、ただ、私の中で、何か語ってくるんです。私は、それが、何かとても気になります。この

まま、この思いを聞いていけばいいんでしょうか。それが私にはとても不安です。

だから、私は、訊ねました。私は、この学び、田池留吉を本当に信じて、このまま進んでいけばいいのでしょうか。私は、不安で、不安でなりません。何かしら心の中から突き上がってくるものがあるんです。私は、それが何か知りたくて、そう、そんな今を感じています。

お母さんに思いを向け、田池留吉に思いを向けたときに、私の心は、和らぎます。しかし、また私は、自分の心を見つめると、その心の底から、何か、得体の知れないものが突き上がってくるのを感じています。

異語。

***さん、どうぞ、しっかりとお母さんの反省をして、お母さんの瞑想をして、お母さんから流れてくる思いを、自分の中でしっかりと確認して行ってください。

あなたの中には、他力のエネルギーが、まだまだたくさん、たくさん残っています。もちろん、あなた自身は、この学びに出会い、田池留吉と出会い、そういうことで、とても喜んでいますが、その喜びは伝わってきます。しかし、それ以上に、あなたの中には、まだまだ凄まじいエネルギーが残っているんです。

あなたが喜べば、そのエネルギーは、益々あなたの中で大きくなってきます。それは、すべてが温もりに帰りたいからです。

その思い、自分の中で受け止めていくことをやっていってください。何も恐怖はありません。不安はありません。

もし、あなたが、不安を感じ、恐怖の思いを大きくしているのならば、あなたの感じているお母さんの温もりも、田池留吉の世界もまだまだ、ちっぽけなものです。

だから、もう少し、自分の中を見ていってください。欲と二人連れでは、この学び、一歩も進まないことを、私達はお伝えしました。

そうなんです。喜びを感じれば感じるほど、あなたの中の闇のエネルギーを感じていくんです。そのことを喜び切れないあなたは、他力のエネルギーが、まだまだ自分の中に残っている、そのエネルギーをまだまだしっかりとつかんでいる、そういうことではないでしょうか。

まずは、あなたの心を見て、しっかりと自分で気付いていかなければなりません。心で気付く学びです。

田池留吉、お母さんは、いつまでも、いつまでも、あなたの中で待っています。あなたが気付き、喜んでいくのを、ただただ待っていてくれる存在です。どうぞ、自分を信じ、ひたすら、お母さんを思い、田池留吉を思い、瞑想を続けていってください。

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

心を見るのが難しい。日常生活の中で心を見るのが難しい。けれど、私は、この心を見る学びをやつていこうと思いました。自分の中は、自分で救っていかなければどうにもならないことを感じるからです。

どんなに何を言われても、私が私に伝えることができなければ、何も始まらない。私は、そのように今、感じています。

日常生活の中では、たくさんのエネルギーを流し、またたくさんのエネルギーを受け、そうやって、私は、その中で自分を見失いそうになるときもあります。それがこれまでの私でした。ああ、私は、やはりとても己が偉いんです。心の中で、己偉い自分を確認することを、これからやっていきます。自分が思っているよりも、もっと、もっと、己偉い私があるんです。私のエネルギーは、そんな生半可なものではありません。だからこそ、今世、こうやって、肉をいただいたんですね。そのことを軽く受け止めてきました。

心の貧しさを感じます。私は、自分の中を、もっとしつかりと見ていきます。そびえ立つ意識の中では、自分を見ることができない。自分の中の貧しさ、苦しさ、哀れさ、そういうものから、目を逸らして、逸らしてきた私がありました。そんなことではどうすることもできませんでした。

そんな苦しくて暗くて哀れでどうしようもない自分にこそ、しつかりと目を向け、心を向け、そんな自分を受け止めていかなければならない。私は、今、そのように思っています。逃げてきました。自分から逃げてきた。私は、本当に自分を裏切ってきた。そんな思いが、心から出てきます。

異語。

***さん、時間を見つけては、瞑想を続けていってください。

今その肉がある間、そして、年齢が若い間、体力も気力もある間です。

もちろんその間には、肉を維持するために色々なことをしていかなければなりません。しかし、自分がなぜ生まれてきたのかというところに立ち返ってみれば、やはり、体力、気力のある間に、自分の心を見て、自分のエネルギーを知って、そうしていくことが、何をおいても

一番大切なことだと心に響いてくるはずです。

肉を持ちながら学びをする難しさは、百も承知です。しかし、その難しいことをやろうと、今世あなたも望んで生まれてきたのです。そして、この学びに集ったのです。そのところに重点を置いて、自分がなすべきこと、するべきこと、しっかりとなさってください。

体力と気力のある間、あなたからすれば、年齢的にはまだ若いと思っておられますが、学びを本当にしていく時間というのは、限られています。

そのタイミングというか、旬というものが、それぞれにあると思います。それを逸すれば、やはり自分の計画してきた、予定してきた通りにはいかないでしょう。肉を持って学ぶ難しさです。

ですが、基本的には、どんなことも喜びで受け止めていける時間なんです。

計画通りに進まなくても、進んでも、すべては喜びです。そんな中にいる私達でした。

喜びが基本です。喜んで、喜んで、今という時を大切になさってください。

二二一、会員番号1440さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

苦しい時も、悲しい時も、そしてもちろん、嬉しい時も、田池留吉、アルバートでした。私の中に、その思いが、今、広がっています。

心の中を見ていくと、私は、他力の中にずっと、ずっとあつたけれど、今世、ようやく、微かな喜びを感じています。まだまだ私の闇は深いです。他力のエネルギーはすごいです。しかし、私は、今世、この肉をいただき、ようやく、ようやく、自分の中を見つめる、本当に喜びで見つめるということを教えていただきました。

嬉しいです。すごい、すごいエネルギーを蓄えてきました。宇宙時代から、すごいエネルギーを蓄えてきました。この地球上での転生を重ね、私は今、ようやく、ここにいてることを感じています。

まだまだ日常の出来事に心がとらわれていきます。肉に、まだまだ時間が割かれます。しかし、私は、淡々と自分のプログラムに沿って、自分を見つめていくことをやっているように思えます。

今年を、私を大きく変える年にしていこう、そのように自分で決めています。周りは、私に訴えていました。苦しい心を見つめてください。あなたの心はどうですか。あなたの心は、

苦しくないですか。間違っていないですか。そんなメッセージを、私は、いつも、いつも受けてきました。周りの人達から受けてきました。ありがたい存在です。周りの人達は、ありがたい存在、私は、今、そのように思えるようになりました。

心を見つめていきます。お母さん、あなたに私は、生んでいただきました。

今のこの時を大切に過ごしていこうと思います。肉で、欲にまみれてきた私の心の中にも、ようやく、あなたに少しだけ顔向けができるような、そんな気がします。

異語。

***さん、そうですか、よかったですね。あなたは、あなたの心を見ていくだけです。どんな心を出してきたか、どんなエネルギーを流してきたか、この地球上で、そして宇宙時代に、そうです、あなたの心を見つめていってください。

ともに、ともに、歩める仲間がいます。たくさんの意識達に呼びかけてください。時間を見つけて瞑想をしてください。己を誇る思いも出てくるでしょう。そうしたとき、お母さんに思いを向け、優しい温もりで、その闇を包んでいってください。

そのことを、淡々と繰り返し返してください。そして、田池留吉、アルバートに心に向けてい

ってください。アルバートは、あなたの心の中で待っています。田池留吉の意識、アルバートの意識、あなたの心の中で、二五〇年後の出会いを待っている、そのことをどんどん自分の中で感じていってください。

一一二、会員番号1740さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

自分の中にある欲の思い、他力のエネルギー、私はそれに縛られて生きてきました。小さな中に押し込めて、自分を解き放つことなく過ごしてきたこれまでの時間を振り返っています。お母さんに申し訳ない思いが出てきます。しかし、私の中には、まだまだ自分に優しくなれないそんな私を感じています。

他力のエネルギーは、本当に凄まじいんですね。冷たい、冷たい、暗い中にあつた私を感じます。そんな私に優しいいざないをしていきなさい、はい、今、そんなメッセージを感じています。

私は、私を見つめていきます。他力の中に苦しんできた私は、私を見ていきます。これからも、私を見つけていくだけなんです。

今、ゆつたりとした時間を用意しています。まだ身体も健康です。こんな中で、私が私を見つめていける、私は、そのことがとても嬉しいんです。

どれだけこの時を待ってきたか、まだ自分ではよく分かっていますませんが、私の中は、そう伝えてきます。

お母さん、申し訳ない。お母さんの思いを踏みにじって生きてきたこれまでの私でした。これから、私は、自分を見つめてまいります。

異語。

***さん、どうぞ、しっかりと自分を見つめていってください。

あなたのお勉強は、これからも永遠に続いていきます。今世の自分の学びを通して、それを感じていってください。今は、その通過点に過ぎません。しっかりと心を見ていくことを学んでいってください。母に使った思い、他力のエネルギーを膨らませてきた思い、どちらも、しっかりと見ていってください。

あなたは、まだまだ自分の奥底のエネルギー、その凄まじいエネルギーに気付いていないけれど、とても大きなものがありますよ。

しっかりと心を見つめていってください。あなたが心を見ていけばいくほど、そのエネルギーがあなたに伝えてきます。

もっと、もっと、伝えてくれ。もっと、もっと、優しさと温もりを伝えてくれ。凄まじいエネルギーが飛び出していきます。

どうぞ、臆せずに、自分をしっかりと見つめていってください。

ただただ、お母さんに心を合わせ、田池留吉に心を合わせ、ゆったりとした中で、瞑想を楽しんでいってください。あなたがすることはそれだけです。

二二三、会員番号1695さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

はい、色々なエネルギーを心に詰めてきました。我一番の世界を心に詰め込んできました。

今も、我一番とこの心の中から出てきます。その思いを、私は、しっかりと確認しています。そして、お母さんに思いを向ける、そのことをやっています。

お母さんに思いを向けると、私の我一番という思いは、嬉しいと出てきます。今まで、とても苦しい、苦しい中にありました。苦しい、苦しいだけでした。我一番は苦しくても、我一番、我一番とそうやって、私は、自分を奮い立たせてきたのです。その私が、我一番と心で思ったとき、そんな私に、お母さんの優しさがフツとくるんです。

そんな体験をさせていただいています。もちろん、それは、本当に微かな感覚です。しかし、この感覚は、私の中では、とても大切なものだと思っています。

瞑想を続けています。瞑想をして、私を見つめています。本当に苦しい、苦しい、言葉では表現できないほどの苦しい中に存在してきた自分を感じます。

我一番、我一番、己の小さな世界を、我一番だとしてきた私のこれまでの転生の数々でした。お母さん、私は、今、それまでの私を語り、心の中に、申し訳ない、お母さん申し訳ない、素直に、そう言える私を感じています。

異語。

***さん。はい、我一番の厳しいエネルギー、荒くて厳しいエネルギー、その波動の世界を、あなたはあなたの中で、これまでに充分感じてこられたと思います。我一番は、とても、厳しくて暗くて冷たい波動です。しかし、あなたも、おっしゃったように、あなたの中に、本当の優しさ、本当の温もり、お母さんの温もりが存在しています。

あなたは、そのほんの一端かもしれませんが、それを感じられたと思います。どうぞ、そのご自分の心を信じて、信じて、これからもやっていってください。瞑想を続けていってください。

あなたから、まず変わっていくんです。あなたが、まず変わっていくんです。

優しい母の温もりを心に思い出してください。

母の温もりです。母の優しさです。本当の優しさ、本当の温もりで、自分自身を包んでいくことに専念してください。周りは、自ずと整ってきます。あなたから流れるものが変わっていけば、周りは整ってきます。その体験をできれば、今世、なさっていってください。

***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、心を見ても、見ても、見尽くせないほどの闇を蓄えてきました。ブラックのパワーを蓄えてきました。それが私でした。なかなか認めることができませんでした。己の偉さを感じます。

今、私は、自分を振り返る時間が許されています。そして、私は、自分を振り返っています。己の偉い私でした。どうしても、どうしても、この心の中から出てくる思いは、田池留吉くそつたれの思いです。

どれだけ私は、自分を見つめても、その思いが出てきます。田池留吉に思いを向けるとき、即座に出てくる思いは、それでした。そんな私が母に肉をいただき、この学びに集えました。

自分の心を見なさい。自分の心を見つめていきなさい。自分のエネルギーを感じていきなさい。母の思いは、そんな思いだったのです。しかし、私は、その母の思いに沿わずに生きてきました。自分ではしつかりと生きてきたと思ってきましたが、自分のエネルギーに突き動かされていたに過ぎなかったのですね。

アマテラスのエネルギーでした。アマテラスのエネルギーのままに、私は、この人生を歩いてきました。己が一番、一番とそびえ立った思いで、ずっと、周りを支配してきました。こんな凄まじいエネルギーを蓄えてきた私でした。

今世の私は、しかし、過去からの私に比べると、遥かに、遥かに、幸せです。中は同じです。中は、真つ黒で苦しい私ですが、しかし、そんな苦しい私を、今、いくらでも見つめようと思えば、見つめられるからです。

自分を感じていけるからです。こんなことは、私の転生の中で、ただの一度もありませんでした。ただただ自分のエネルギーに突き動かされてきた、そんな私でした。

今、自分を語るとき、本当に凄まじいエネルギーの中を生き抜いてきたと感じています。

***さん、心をしっかりと見つめていってください。見つめていくんです。心を田池留吉、そして、アルバート、そしてお母さんに向けて、あなた自身を、しっかりと見つめていってください。

しっかりと見つめても、あなたが語ったように、今世の時間だけでは、見ても、見ても切りがないほど、あなたの中に、凄まじいエネルギーを蓄えてきました。蓄えてきたのはあなた自身です。本当のことを知らずに、他力の神々を求めて、求めて、求め続けてきたあなたの結果

です。

だから、今、そのあなたを見つめられる時間を大切にしていってください。

時間は、まだまだあると思います。しっかりと自分を見つめていってください。できる限り瞑想をして、自分の心を見ていくことです。

欲の心が出てきたら、またそこから、自分を見つめていき、己の偉い思いが出てきたなら、またそこから、自分を見つめていってください。

いつも、いつも、自分を支えてくれたお母さんに思いを向け、優しい、優しい思いで、自分を見つめていってください。

二二五、会員番号1270さんの意識

****さん、心を語ってみてください。

己の偉い私を、真正面からとらえずに、しっかりと見ずに、今まで過ごしてきました。やっと、私は、自分の己の偉さを、自分の中で認めていけるようになりました。

はい、私は、己がとても偉かったです。己ほど偉い者はない、そうやってそびえ立つてきました。それが今世の私でした。いいえ、過去からの私でした。過去から、私は、ずっと、母を見下げ、温かい、温かい思いを蹴散らしてきました。

そんなもので私は生きていけないと、自分の中に己を素晴らしく引き立てるパワーを求めてきたんです。宇宙のパワーを求めてきました。

己の偉さはそこにあります。パワーを求めてきました。宇宙のパワーです。私は、宇宙のパワーを求めてきました。

そして、己の偉さを助長してきました。そんな私を、今、心に感じています。今、ようやく、その私と真向かいになっていこうと思えるようになりました。

お母さん、ごめんなさい。こんな私でした。今、自分を語っています。こんな私でした。こんな私が、母に肉をいただいた。本当にありがとうございます。その喜びを、今、感じています。

異語。

***さん、そうですね。あなたも、今世、色々な現象があったと思います。すべては、そのことに気付いていくためです。しかし、なかなか自分と真向かいになることはできません

でした。

恐怖心があったからです。自分を崩していくことに恐怖してきました。

そんなあなたです。しかし、自分の心をしっかりとらえ、真正面から見つめる喜びを、少しずつ広げていっていると思います。

どうぞ、お母さんに向けて、反省瞑想を続けていってください。

反省瞑想です。瞑想の中で反省をしていくんです。ただただ、優しく、優しく、何の思いもなく、ただただ受け入れてくれた母の思いを、しっかりと心に蘇らせていってください。そうやって、あなたの今世の時間を過ごしていってください。

そして、あなたも次の転生に心を繋いでいける、そんなあなたになっていってください。私達は待っています。私達は、あなたの心の中で、いつまでも待っています。

二二六、会員番号1768さんの意識

私は、***です。心を語りたい、語りたい、途轍もなくすごいエネルギーを蓄えてきた、他力のエネルギーを蓄えてきた心を語りたいと、自分の中から飛び出てきます。

心を語れることが嬉しいです。お母さん、申し訳ありませんでした。どんなにしても、母の思いに応えていかなければなりません。

私は、お母さんの温もりから生まれてきました。お母さんに、ようやく、そのことを伝えることができず。

間違ってきました。お母さん、ごめんなさい。お母さん、私は、何も分かりませんでした。すごい、すごいエネルギーを蓄えてきました。

お母さんに歯向かって、ずっと、ずっと転生を繰り返してきました。

今、ここに来て、ようやく、母の思いを心にかけています。

田池留吉と出会いたいという私との約束、お母さん、あなたは果たしてくれました。お母さん、ただただありがとうございます。ありがとうございます。

はい、母の温もりを心にかけています。私は、間違ってきました。間違つて、間違つて、間違つてきました。間違つた道を、何度歩いてきても、私は、私を振り返ることなく、今の今までやってきました。

今世、ようやく、そのことに気付かせていただきました。

ただただお母さんにありがとうございますを伝えたいです。

異語。

****です。ありがとうございます。お母さんの温もりをどんどん心に広げていってください。

私達は待っています。あなたが宇宙に心を向けてくれるのを待っています。

宇宙はあなたを待っています。喜びがあなたを待っています。

宇宙へどんどん心を向けていってください。お母さんの温もりを心に広げながら、宇宙を思っていくんです。宇宙は暗黒です。暗黒の宇宙をどんどん心に受け入れていってください。どうぞ、喜びで受け入れていってください。

二二七、会員番号1727さんの意識

****さん、あなたの心を語ってみてください。

はい、優しい私も感じます。お母さんの思いも感じます。しかし、私は、肉の私が基盤です。

肉の私を本物として、そこから、私は、自分の心を見えています。

もちろん、嬉しい思いも感じてきました。田池留吉との出会い、この学びとの出会い、私は喜んできました。

しかし、それが今ひとつ、自分の中に響いてこないのは、この他力の思い、肉を本物とする思いを、まだしっかりと握っているからです。

部厚い壁を感じます。嬉しい思いも、幸せだという思いも、その部厚い壁に遮られて、まだ私の中には、しっかりと届いてきていない、それが私の現実です。

遠いところで、私の喜び、幸せ、そういうものを感じている、そんな感じがします。自分を語るとき、そんな感じがします。

私と私の間に、大きな部厚い壁がある、これが肉を本物とする壁なんですね。今、自分を語りなさいと言われて、自分を感じていけば、その部厚い壁がどっしりとあることを感じます。嬉しい、喜び、それがまだしっかりと自分の心に定着しないのは、こういうことでした。

はい、今、自分を感じ、その思いが自分の中で何となく分かります。

肉を本物とする壁が、目の前に立ち塞がっているとこの感覚です。ここから、田池留吉、アルバートと呼んでみても、本当に距離がある、そんな自分を感じています。

***さん、あなたが、今感じたあなた自身を、上手く表現できにくいかもしれませんが、そういうことだと思います。

肉を本物とする思いが自分の中に立ち塞がっているとき、喜び、幸せ、温もりを感じても、何だかそれが程遠い世界のことのようにしか感じられない。自分の心に真つ直ぐに響いてこない。そういうことをあなたは、語りたかったんだと思います。

しかし、焦らず、たゆまず、自分の心を見て瞑想をしていく、そんな時間を持つことが、一番大切でしょう。

肉を本物とする思い、その壁を取り除こうと思っても、それも、所詮肉の思いです。

これからの転生の中で、あなたはあなたの闇を真つ直ぐにとらえ、その中で自分を見つめていくプログラムが組まれていると思います。

ですから、今世、どうぞ、焦らず、たゆまず、自分の心を振り返り、真摯な思いで瞑想を続けていく、そのことに専念してください。

今世初めて、自分の心を見るところを肉で知った、そこからのスタートです。そんなに簡単に意識の転回はできない、それを感じながら、だからこそ、一日、一日大切に、自分に優しく、自分に誠実に、時間を使っていく、それがあなたのアルバートへの道なのではないでしょうか。

二二八、会員番号1332さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

はい、本当にお母さんに楯突いてきました。自分に歯向かってきました。優しい温もりを蹴散らしてきました。そんな意識の中で、私は、苦しみ喘いできました。真つ黒な世界を広げ、真つ黒な波動を宇宙に流し、私自身を見限ってきた、この心の中です。

だからこそ、私は、母に生んでもらい、この学びに集えたのだ、そう思います。

学びを知ったのは、心が敏感になって、素晴らしい自分を知っていくためではありませんでした。学びの出発が違っていた。そのことを、この頃つくづく感じます。たくさんのチャンスを踏み潰してきました。己の偉さで踏み潰してきました。

今、自分を語れることが、不思議なくらいです。なぜならば、どれだけ心を見て、反省をして、瞑想をしても、私の心の中は、苦しいからです。苦しいということは、あなたが間違っています、その原点に立ち返って、私は、本当に、一から学んでいきたいと思っています。

己の偉い私がこのような思いになれること自体、不思議です。不思議だけれど、これが意識の流れと言えば、流れなのでしょう。

肉をつかんで、肉でやってきました。意識の流れに素直ではなかった私でした。今、母に思いを向け、田池留吉に思いを向け、自分を感じるとき、もう苦しむのは止めよう、苦しみ続けてきた自分が、あまりにも哀れで悲しくてなりません。

お母さんは、そんな私を生んでくださいました。母に使ってきた心はすごいエネルギーです。そのことを私は、全く忘れ去っていました。私は、地獄の奥底の底の底にあったから、母から肉をいただいたのです。

その思いに立ち返りなさい、そう私自身がずっと伝え続けてくれました。

***さん、心を見る大切さ、心を見る優しさ、心を見る嬉しさ、それをご自分の中で広げていってください。

喜んで、喜んで、心を見ていってください。喜んで、喜んで、瞑想をしていってください。

自分が自分に与えた時間、自分が自分に与えた環境、その肉、すべては喜びです。喜び以外は何もありません。

心を落とすのもあなたなら、心を広げていくのもあなたです。

優しい母の温もりが、あなたの中で待っています。

あなたも感じておられると思います。優しい母の温もりです。

優しいあなたです。優しいあなたがあなたを待っています。

心を私達に向けてください。優しく、優しく向けてください。そんなたくさんの方をあなたに受け止め、これからも、一步、一步、歩いていきましょう。

あなたがお母さんの温もりを、その心で少し感じ、そして、それが、少ししっかりとってきたならば、そうですね、あなたにも、やはり、宇宙を思っていたきたいと思えます。

暗黒の宇宙を思ってください。宇宙を思うことは喜びです。暗黒の宇宙は喜びを伝えてくる、この瞑想の醍醐味をあなたも心で感じてほしいと思います。

どうぞ、まずは、お母さんの温もりを、自分の中でしっかりと思い起こしてください。己の偉いあなたでは、宇宙を思う時、あなたの心には苦しみだけが広がっていきます。

ですが、選択していくのはあなたです。そして、その責任を取るのもあなたです。真っ直ぐにご自分を見つめ、今世、生まれてきた喜びを心に広げていってください。

***さん、心を語ってみてください。

はい、心をしっかりと、今、自分のほうに向けています。今、自分の中を見つめています。アマテラスのエネルギーを蓄えてきた私ですが、そのアマテラスのエネルギーに、しっかりと心を合わせています。優しい思いで、アマテラスを見つめています。

アマテラスを毛嫌いすることなく、アマテラスを見つめています。今、私は母に生んでいただいたことを嬉しいなあと素直に喜べる私があります。

アマテラスの心を感じていけばいくほど、私は、その思いが心の上がつてきます。

アマテラスも本当の自分に帰りたいんだ、お母さんの温もりの中に帰りたいんだ、私は、ようやく自分の中で、そのような思いを少しずつ広げていける私になってきました。

アマテラスを誇りとしてきた自分、アマテラスのパワーを求めてきた自分、すべて、すべて間違ってきました。冷たい心で私は、ずっと存在していたのです。

そうではありませんでした。アマテラスの心に温もりを、本当の優しさを伝えるために、私は、このようにして肉をいただいできたんですね。

本当にそうでした。肉を持てば、アマテラスの心を、その思いを膨らませるばかりでした。ただただアマテラスの僕となつて、アマテラスの心をこの宇宙に広げてきた、そんな私でした。今、私は、母の温もりの中にある自分を、ほんの少し感じています。

ほんの少し感じただけでも、とても嬉しいです。

心をしっかりと見つめてまいります。お母さん、ありがとうございます。

***さん、あなたの心の中に寂しさがありません。寂しい思いがしっかりとありますよ。田池留吉、アルバートに心を向けるときのあなたの思いを見つめていってください。

アマテラスの心は、寂しい思いをあなたに訴えています。はい、アマテラスのエネルギーに支配されてきたとあなたは思っておられますが、アマテラスの心は、あなたに寂しさを訴えています。支配する心も、もちろんありますが、アマテラスの寂しさ、そこに、心をもう少し向けてみてください。田池留吉、アルバート、そして、お母さん、素直に呼べるあなただからこそ、私は、こうして伝えています。寂しいあなたを包んでいけるあなたであってください。田池留吉、アルバートは、いつまでもあなたの中で待っています。あなたの中に、温かい、温かい大きな、広い、広い宇宙が広がっています。その宇宙をあなた自身、感じられるように、一日、一日、田池留吉、アルバート、そしてお母さんに向けて、瞑想を続けていってください。

二二〇、会員番号1822さんの意識

***さん、心を語ってみてください。

はい、私の心、心が私、そう私は、そういうことを伝えていただきました。しかし、私は、自分の心を見るというよりも、やはり何か不思議なパワー、そう、パワーを求めてきました。パワーを求めてきた私です。

心を語るとき、パワーと出てきます。パワーをください、パワーをください、私の中にパワーを求める思いがたくさんあります。

ああ、パワーを求めてきました。田池留吉、アルバート、その世界にパワーを求める私があります。そうではなかったんですね。

私の中に優しい私を思い出して、その私が私を包んでいく、そんな学びでした。私は、心をもう少し見つめてまいります。自分の心の中を見つめてまいります。

たくさんエネルギーです。パワーをくれというエネルギー、寂しいっていう思い、はい、本当に語っていけば、真つ暗な、真つ黒な私を感じていけると思います。

ああ自分で感じていくんですね。私は、自分を感じることを忘れてきました。ただただ、パワーをください、その思いだけでした。

自分の中の真っ黒なエネルギー、パワーを求めてきたエネルギーが真っ黒だった、そのことにさえ気付いておりませんでした。

今、自分を語らせていただき、少し、心を見るということはどういうことなのか、心で感じました。まだまだこの肉がしっかりとしています。頭でとらえているかと思いますが、心の中をしっかりと見つめていきます。

エネルギーを中に向けていきます。外に向けるのではなくて、中に向けるのだ、そう自分に伝えたいと思います。

***さん、どうぞ、焦らずに、たゆまずに瞑想を続けていってください。母を思う瞑想です。母親に使ってきた心を、書き出してみましたか。

その書き出した思いに、あなたの心に向けてみてください。凄まじいエネルギーを心で感じられたなら、いいと思います。しかし、まだまだそこまでは至っていないと思います。

しっかりと自分の中のエネルギーを確認していくことです。

それには、まず自分の心を、洗いざらい書き出してみるとか、外に吐き出してみるんです。

瞑想をする時間を持てますか。一人ゆっくりと、静かな時間が持てますか。もし、持てるようならば、その中で自分の思いを確認して行ってください。

異語が出てきますか。異語で、どんどん自分の思いを語っていくんです。

何を語っているとか、そういうことは、全く不必要です。

ただただ自分のエネルギーを確認して行ってください。日々の生活の中において、あなたがすること、しゃべること、その中で自分のエネルギーを感じてください。その感じたエネルギーを、また瞑想をする時間の中で確認して行ってください。

そういうことを繰り返しやって行ってください。あなたの心の中で、必ず、分かっています。自分のすごいエネルギーが分かっています。

その感じたエネルギーを、しっかりと自分の中で受け止めていくには、母親の温もりです。だから母の反省、母の瞑想です。

一步、一步、焦らず、たゆまず続けていくこと、それをあなたにお伝えします。

***さん、心を語ってみてください。

はい、自分なりに心を見てきました。心を、田池留吉、アルバートに向けてきました。しかし、私は、まだまだ自分のエネルギーを、私の中で確認していません。己の偉いエネルギー、確かにしっかりとまだあります。

他力を求めてきた思いが、確かにまだしっかりとあるんです。この心、田池留吉、アルバートに向けるとき、もつと、もつと心を見つめてください、そのように私に伝えてきます。

私の中に、優しい思いをもつと、広げていけると思います。

私は、自分を肉だと思い、この肉を誇ってきました。知らず知らずのうちに、そのエネルギーを流し続けてきました。周りに流し続けてきました。その思いを、まだ私はしっかりと見れていない、そんな感じがします。

自分を語るとき、私の中には小さな、小さな世界を誇ってきた自分を、今感じているけれど、まだその思いはしっかりと残っていると感じます。

田池留吉、アルバート、申し訳ございません。本当の自分に帰る道を、ひたすら歩いていくことを、私は誓ってきました。そんな私なのに、何度転生をしても、その思いを忘れ去っていたんですね。

今、素直に自分を語れます。己偉い思いも喜びで語れます。

今まで苦しかったです。私は、自分を隠して生きてきました。良いところを表現しようと思ってきました。そうではなかったんです。良いも悪いもありませんでした。私は、真っ黒でした。真っ黒な私が私。その私を真正面から受け止めていける、そのことだけが喜びでした。

私は、今、そのように感じています。

***さん、そうですね。真っ黒なあなたをしつかりと受け止めていける道、それがアルバートの道です。素晴らしい自分を誇っていく、そういうのは、アルバートの道ではありません。

優しいあなたを見つけていくためには、真っ黒なあなたをまず見つめていくことです。真っ黒なあなたが、どんどん出てきます。真っ黒なあなただからこそ、温もりを伝えてくれるんです。

その優しさが分かりますか。真っ黒なあなたは優しいんです、本当に優しいんです。その優しさをどんどん見ていってください。

母に生んでいただいたあなたです。お母さんから、その肉をいただいたあなたです。そのことだけが、あなたの中の優しさ、あなたの中の真実です。

私は、そのようにお伝えします。どんな心が出てきても、喜んでいつてください。己を誇ることなく、自分を見つめていつてください。

学びをしているから、自分は立派、そうではありません。真つ黒だから、私は、生まれてきた。真つ黒だから、私は私を見つめていける、その原点に立ち返っていつてください。

田池留吉、アルバートは、あなたの中で待つています。宇宙は待つています。宇宙に思いを向けることを、あなたもしていつてください。

宇宙は変わつていますよ。あなたが思つていける以上に、速いスピードで、意識の世界は変わつています。

どんどん、あなたは、あなたを見ていくだけです。どうぞ、そのことをやり続けつてください。

二二二二、会員番号1168さんの意識

***さん、心を語つてみてください。

はい、凄まじいエネルギーを蓄えてきました。はい、もう、本当にすごいです。セミナー

会場で、私は、そのエネルギーを出してまいりました。そして、そのエネルギーに、自分なりに思いを向けてきました。優しい思いを向けてきたつもりです。しかし、私は、まだまだです。まだまだ己が強いです。己という思いがとても強いです。

田池留吉に思いを向けるとき、優しいなあ、嬉しいなあ、お母さんありがとう、その思いも感じる一方で、まだまだ田池留吉に歯向かうエネルギーが心の底から湧いて出てきます。そんな私の今です。

それでも、今、私は、私を語るとき、とても嬉しいです。心が、どんどんどんどん自由に解けていけるような、そんな気がします。

肉の中で、私は、小さく、小さく生きてきたこれまでの転生でした。

そして、今世、肉をいただき、またしても、私は、心を小さくして生きてきました。そんな小さな世界の中で、周りの者を支配してきました。そんな小さな世界の中で、私は、己一番をやってきたんです。本当に愚かな私でした。

今、母に思いを向け、私は私を語るこの時間が、とても嬉しいです。瞑想をする時間を楽しんでいきます。これからも、私は、自分の中で瞑想をやってまいります。田池留吉、お母さん、ありがとうございます。

***さん、そうです。心の中で、あなたは、あなたを見つめていくだけです。意識と意識の語り合い、あなたの中で進めていってください。肉はもういいではないですか。肉のことはもう程ほどいいではないですか。あなたは、充分にその肉を動かしてこられました。心ももちろん、それにつれて、色々な心を使ってきました。そのエネルギーは、心の中で、感じられると思います。もう止めていきましょう。

あなたの中を、あなたが見ていけば、あなたは、自分を幸せにしていける、そんなパワーがあなたの中に溢れている、それを信じて、信じてやっていってください。周りみんなそのことを示してくれています。すべてはあなたの勉強です。あなたの教材です。喜んで受けていきましょう。

何があっても喜びなんです。喜びしか存在しないことを、あなたに伝えます。

一一三三、会員番号1538さんの意識

***さん、心を語ってみてください。

はい、心に感じる世界があるのに、私は、まだそこに今一步を踏み出していない、私の愚かさを感じます。

私は、真実の世界を知りたいと思い、母にこの肉をいただきました。

そして、田池留吉の学びに集いました。途中、私は、この学びから去ってしまいました。肉の事情です。肉の事情がどうであれ、私は私を見限ったのです。そのところに立ち返り、もう一度反省を進めてみます。

肉の持ち出しをせば、それぞれにそれぞれの事情があり、それぞれにそれぞれの立場があります。私は、そんなところから、この学びを見ていたと、今、心に感じています。今一步踏み出せないのは、はい、しっかりと肉を握っているからです。

肉とこの学びは両立しない、頭では分かっているけれども、私の心がそれを実践することを、阻んでいます。

肉を自分だと思っているからです。生活はどうなるのだろうか、この思いが優先していました。

違いました。今、自分を語るとき、私は、真実の世界を知って、自分を変えていこうと思い、生まれてきたんだ、この思いが、しっかりと心にあるじゃないか、私は、また自分を裏切っていくのか、そんな声が聞こえてきます。

心を見ることを第一にして、この学びを第一にしていくこと、それが私の思いでした。肉の生活は、私が心を見て、その私の本当の思いに従っていけば、肉の生活など、整っていくはずだ、私は、今、そのように感じます。

申し訳ありません。私は、肉をつかみながら、この学びをしていた。

私の一歩が歩み出せないのは、そこにありました。

今、そのことを確認させていただきました。

***さん、田池です。あなたも心で感じておられる通り、今世の時間、今という時が、本当に大切な時なんです。

私達は、二五〇年後の次元移行を目指して、真実を伝えている意識です。

その真実の世界に足を踏み入れたあなた、もう少し、しっかりと自分を見つめていってください。

今という時が、どれだけ大切な時間か、あなたの中で、もつと確認していただく。

それには、瞑想をする時間を、あなた自身が作って、その時間を持つようにしていただく。

それぞれに生活があり、瞑想に時間を割くということが難しい事情があるかもしれません。

ですが、私達はお伝えします。

あなたの世界を感じるからこそ、お伝えしたいんです。

どうぞ、今世という時間を大切にしていってください。今世は、次の転生に繋いでいく大切な時間です。

あなたも、瞑想をして、そのことを心で感じていってください。

もし、あなたが心でそのように感じられたならば、その感じた思いに素直になって、これからの時間をどのように過ごしていくか、自分で答えを出してください。

私達は、強制はしません。どなたに対しても、自己選択、自己責任、そのようにお伝えしています。

しかし、真実、意識の流れ、その流れは、速いスピードで変わってきています。学びもすでにお伝えしている通り、学びの現実はあなたが想像している以上に遙か先を行っています。どうぞ、あなたも、しっかりと自分の心を見て、瞑想をして、その流れに沿うようになさってください。よろしくお願ひします。

***さん、心を語ってみてください。

はい、私は、今まで、頭を誇ってきた、頭で解釈してきた、そのように何度も言われ、また自分でもそう思ってきました。

そのことで、なにくそという思いと、心を小さくする思いと、色々な思いの中で、私は学びを進めてきました。

今、心を語ってくださいとメッセージを受け、そして、私は自分を見えています。自分を見ていると、私は、こんなに幸せの中に包まれていた、幸せの中に存在していた、そのことだけを感じます。

頭とか肉とか、そういうことは、全く私の中にはありません。

ただ私は、幸せな中に存在している、その中で、私は、自分を見つめていける、こんな幸せなことはない、私は、今、そのように思っています。

肉を誇る、頭を誇る、頭を過信する、本当に下らないことだけれど、私は、それをずっと、ずっとやり続けていたんですね。そのエネルギーたるや、すごいです。すごいエネルギーを自分の中で振り返っています。

だからこそ、私は、そういうものをもう自分の中に追い求めず、ただ今、幸せを感じ、語っている自分を信じていこう、そのように思っています。

何もなくてもよかった。ただ今ここに存在していることだけが幸せでした。

母に思いを向け、宇宙に思いを向け、今、私は、そんな幸せな自分を感じています。真っ黒な自分でよかったですね。何も誇るものがなくてよかったですね。

頭など、要りませんでした。私の肉を離せば、私の頭など、何の役にも立たない、それが現実なんです。意識の世界の現実、今、心で感じています。

***さん、瞑想をする時間の中で、幸せなあなたをどんどん感じていってください。ただ田池留吉、アルバート、そして宇宙に思いを向けるとき、あなたの心の中から喜びが溢れてくると思っています。

真っ黒なエネルギーとともに、その底にある喜びの思い、幸せな思い、本当に、本当に嬉しい時をいただいている、そんなあなたが感じられると思います。どうぞ、宇宙に思いを向けていってください。宇宙は待っています。

「私達は待っています。宇宙はあなたに呼びかけています。心を向けてください。あなたの宇宙に心を向けてください。真っ黒な、真っ黒な宇宙に心を向けてください。あなたの心の中

に、優しい思いと温かい温もりで、真っ黒な宇宙を思ってください」。そんな呼びかけを、私達は、あなたにしています。

どうぞ、どうぞ、しっかりと心を向けていってください。

母の温もりを思いながら、心を向けていけることを喜んでいってください。田池留吉、アルバート、その宇宙はあなたを待っています。

これからの転生、厳しい転生ですけれど、あなたの中で心を繋いでいけるあなたを感じます。どうぞ、しっかりと心を繋いでいってください。

そして、二五〇年後、喜びの中で、私達と会いましょう。

そのためには、まず、今世、今という時間、しっかりとあなたの心を見て、次の転生に繋いでいくことに専念していってください。

二二五、会員番号1424さんの意識

***さん、心を語ってみてください。

はい、心を小さく、小さくしてきました。ある時はそうです。そして、ある時は、自分を大きく、大きく誇ってきました。この両極端で、私は、ずっと苦しんできました。過去からの転生の中で、私は、両極端をやつてきたんです。今、それを感じます。

心を語るな、語るな、語つてはならない、そんな思いと、語りたい、語りたい、もっと、もっと、心を語りたい、そんな思いと、これもまた両極端です。

そして、私は、今、まだ自分の中に母の温もりを確立していないことを感じています。心が、まだまだ揺れます。色々なことを目にし、耳にすることで、私の中にはつきりとした中心棒がないから、私の心は、揺れて定まらない、そんな自分を感じています。

でも、私は、こうやって、心を見る、そして瞑想をする、心を語る、自分のエネルギーを感じる、こんな学びに集えたことを喜んでいきます。

田池留吉に対して、たくさんエネルギーを使ってきました。歯向かうエネルギー、とても厳しい波動を流してきました。これが、私が宇宙に流してきたエネルギーですね。周りの人達に流してきたエネルギーですね。

そして、私自身に流してきたものなんです。

申し訳ございません。今、自分を語りながら、自分のエネルギーを感じています。本当に荒い厳しい真つ黒なエネルギーでした。その波動の中で、よくここまで来たことだと、不思議

でなりません。

はい、ありがとうございます。どんな自分でもよかった。お母さん、ありがとうございます。ただただありがとうございます。ありがとうございますしか出てきません。

真っ黒な私が、ありがとうございますと言える、こんな嬉しい、嬉しい思いを感じさせていたでいます。

心を見つめていくことは喜びです。心を見ることは喜びです。はい、今なら分かります。心を見ることが喜びですね。瞑想をすることが喜びですね。

宇宙に思いを向けることが喜びですね。どんどんどんどん、私の中を語ることが喜びなんですね。ありがとうございます。

中心棒をしつかりと確立していきます。はい、どちらに転ぶこともなく、ただただ私の中に中心棒を確立してまいります。

***さん、どうぞ、しつかりと自分の中を見つめていってください。田池留吉の意識は、あなたにそのように伝えていると思います。

心を見つめていくこと、ただそれだけです。瞑想をすること、ただそれだけです。それだけに、これからのあなたの時間を使っていってください。

確かに、色々なことがあり、あなたの中は、ざわついているかもしれませんが。しかし、今、静かに目を閉じて、田池留吉、お母さんを呼べるあなたを感じられたと思います。

そのようなあなたがあるからこそ、色々な思いがまた、喜びへと変わっていくんです。その瞑想をする喜びを、しっかりと心に感じ、あなた自身を心に感じてみてください

あなたは、まだまだ変わっていきけると思います。優しい、優しいあなたがあなたを待っている、そのことを信じて、瞑想を続けてみてください。

異語で、あなたを語ってってください。あなたとあなたの中で、心をどんどん自由に解放してみてください。私達は待っています。

二二六、会員番号1331さんの意識

***さん、心を語ってみてください。

心の中を語れと言う。苦しい。苦しい心の中を語れと言う。私は、この学びについて、不信感を抱いて過ごしてきたこともありましたが。

しかし、今、心を語れという優しい思いに触れています。

私も、本当に心を見て、自分の中を変えていきたい。

お母さん、ありがとうと、素直に心の底から言える私に生まれ変わりたい。

そんな思いを感じます。

不信感を募らせてきた私は、本当に愚か者でした。心の中に、本当の安らぎを、本当の幸せ、温もりを求める私があるのに、不信感を抱いて、田池留吉の学びに集っていました。

肉を本物とする思いが私の前に立ち塞がっています。

あなたは、それを私に、何度も、何度も伝えてくれました。

そのたびに、私は、心から反発する思いを向けてきました。

そんなことは分かっている。だけど、私は、今これが現実なんだ。私にどうしろと言うんだ。この思いが即座に出てくるのが分かりました。

これが、私の学びに対する不信感です。それならば、私はこの学びを止めればいいとも思うけれども、止めずに、止められずにきました。

そんなウジウジした私を感じ、私自身を情けないと思い、こんな私が嫌でした。そうではありませんでした。どんな私でも、受け入れていかなければならなかったのです。私が私を見捨てたら、本当に、私は、地獄の奥底の底の底から浮き上がってくるなどできない、今、

その厳しい現実を感じています。

心の中を、しっかりと見つめていきます。どんな苦しい私でも、しっかりと受け止めていきます。この今の現実の中で、私を受け止めていきます。

私は、地獄の奥底の底の底から、やっとこの肉をいただいたのです。

今度、帰るとき、その奥底の底の底の少し上のところまで、私は、帰っていききたい。今、そのことを、自分の中で思っています。

心を見つめ、お母さんに思いを向け、自分を語り、そんな時間を過ごしていこうと思います。

***さん、自分を縛らずに、自分を閉じ込めずに、小さくせずに、ありのままに自分を見つめていけばいいんです。本当は簡単な学びなんです。あなたの中で、くそつたれ、ウジウジしている思いが出てくれば、そんな自分に優しい思いを向けていく、そうやって、あなたの中で、ただただ思いを見つめていくだけです。

あなたが選んできた肉の環境です。あなたがその中で、心を見つめていけると思ったから、その環境を選んだのです。そのあなたを信じていってください。あなたの中に、優しいあなた、温もりのあなたがあります。

そして、真実の道を歩いていこうとするあなたも、もちろんあります。

そのあなたを信じていつてください。

環境をガラリと変える、それは、あなたの中から、本当にその思いが突き上がってきたときです。あなたの中で、その時に、決断をしてください。あなたが決めていくんです。誰が決めるものでもありません。あなたがあなたの中を見て、これだと思ったならば、その思いに従っていけばいいと思います。その後のことは、自ずと整っていきます。あなたの中で、心を見る道筋ができていくんです。

どんな環境でも喜びです。あなたの中で喜びを広げていつてください。

しっかりと心を見ていく、瞑想をしていく、それをやっていつてください。

二二七、会員番号1831さんの意識

***さん、心を語ってみてください。

はい、お母さん、真つ黒な私を生んでいただきました。己の偉い私を生んでいただきました。地獄の奥底ではいずり回って苦しみ喘いでいた私に、肉をくださいました。そのことを思いな

がら、今、瞑想をしています。

どれだけ懺悔しても、私の中から出てくる思いです。そう懺悔し尽してもし尽くせない、私の闇の思いでした。

心を田池留吉に向けるとき、まだまだ甘い、甘い私を感じます。

己を誇ってきました。田池留吉の上を、どれだけ上を向いて、歩いてきたことか。そんな私の意識の世界を感じます。お母さん、申し訳ございません。

心を見つめて、自分を繋いでいきます。自分を繋いでいく道、喜びの本当の私に繋いでいく道を、今世、私は伝えていただきました。

あなたに肉をいただいたからです。嬉しいです。

真つ黒な自分を感じても嬉しい。私は、今、そう思えます。

***さん、優しい、優しいあなた、本当に優しいあなたを、心に広げていってください。十分に苦しんできました。十分に自分を誇り、十分に自分を見捨て、十分に自分を裏切り続けてきました。もうその転生は、今世で止めにしましょう。といっても、なかなかそれは難しいですね。

次の転生でも、あなたはまた苦しみ続けます。しかし、今世、心で感じたことを、必ず繋

いでいこうと、その決意をして、あなたは今の肉をいただいたのではないでしょうか。

その思いに沿って、どうぞ、一日、一日を大切に、瞑想を続けていってください。

優しいあなたを思い、お母さんを思い、真実の道を歩き続けていこうとする思いを信じて、瞑想を続けていってください。

果てしなく続いていく道です。果てしなく続いていくあなたの道です。

喜んで歩いていきましょう。

心の中で待っています。田池留吉、アルバート、優しいあなたがあなたを待っています。

二二八、会員番号1213さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

心をしつかりと、田池留吉、アルバートに向けようと、日々瞑想をしています。私の中にも、喜びが温もりが広がっていくことを感じながら、私は、瞑想を続けています。

しかし、私の心の中にある思い、はい、それは、やはり他力のエネルギーです。他力のエ

エネルギーが、まだしつかりと、心の中に残っているんです。

喜びを感じよう、温もりを感じよう、それ自体がもう他力でした。

私は、そのことに、自分の中でまだ気付いていない。まだしつかりとそこを見ている。今、自分を語りながら、この思いを感じます。

この思いを感じるとき、心の中から競り上がってくるのは、そう、この他力のエネルギーの苦しきです。

他力の中にある私を、まだまだ見つめていかなければなりません。

私は、たくさんのエネルギーを心に詰め込んできました。パワーを求めてきました。他力のエネルギーの中にこそ、素晴らしい自分を表していける、そんな私を求めてきたんです、この心を隠していました。

自分の中の闇、そう闇ですね。ブラックパワーを求めてきたことを、私は、今、しっかりと自分の中で見つめていかなければならない、そのように感じます。

田池留吉、アルバートに心を向けていけばいくほど、そのエネルギーを強く感じます。私の中で、もっと見つめていきたい、見つめていかなければならない、見つめていってくれ、そんな叫び声のようなものが、心に上がってくるのを感じます。

はい、何も私は、頭を動かさなくてもよかったですね。心の中からどんどん競り上がっ

てくる、このエネルギーを感じていけばよかった。

波動の違いを感じます。今、私を思い、私に語りかけてくる波動、そして、私が語っているとする波動、その波動の違いを、今、少し感じています。

ああこれが、心を見る、その原点なんだなあ、そんなことを、今、感じています。

***さん、他力のエネルギーと一口に言われても、その凄まじさをあなたは、まだしつかりと自分の中で感じてはいない、それがあなたの現実かもしれません。

しかし、焦らずに、たゆまずに瞑想を続けてみてください。

田池留吉、アルバートを素直に呼べるのが喜び、あなたの心は、そのように語っています。そうなんです。素直に呼ぶだけでいいんです。それ以外に何も思うことはありません。何も考えることも要りません。ただただ素直に呼んでいけばいい。

あなたの中で、その練習をしてください。心をふうっと向ける練習です。

あなたは、まだ何かを感じていこうとか、そういう思いがまだまだあります。それが他力を求めてきたあなたの心癖です。

そのところを、しっかりと、あなたの中で学習してってください。

二二九、会員番号1660さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

心を見ることを怠っていました。心を見ることを怠ってきました。

心の中にすごいエネルギーを蓄えてきたのに、私は、自分の中をしっかりと見ていません。それが今の私の現実です。

心の中を覗いてみるのが恐いんです。私の中にどれほどのエネルギーが蓄えられているのか、私は、セミナー会場で感じてきたはずです。

しかし、私は、今、自分の中にしっかりと蓋をして、肉の喜びと幸せを求めています。自分の思いとは、裏腹な生き方をしています。

自分に冷たく過ごしています。こんな私です。私の中に凄まじいエネルギーを詰め込んできたから、それを見るために、今世生まれてきて、今世それを見るために、今があるというのに、私は、自分の思いとは裏腹な生き方をしています。申し訳ございません。

私は、自分をしっかりと見つめていきます。これからの時を大切に、自分を見つめていき

たいと思います。

肉の喜びと幸せの中に浸り切っている私です。どうしても、この思いを緩めることができずに、私は、ここまできました。

田池留吉との出会いを喜んでいたはずなのに、私は、やはり他力の中に沈んでいきます。自分では心を見て、そして反省をして、瞑想をしてということが続けているつもりですが、私の本音は、そうではありません。

肉の喜びと幸せをしつかりと握りながら、この学びをやり続けようとしています。こんな浅はかな自分を今、感じています。

自分の心を語るにつれて、本当に浅はかな自分、愚かな自分を感じます。私は、自分の波動を今、感じています。暗く厳しく、真つ黒な中にある私を、感じています。こんな私を今まで、放りっ放しにしていた、そんな自分を、今、感じています。

***さん、肉で生きる辛さ、哀しさ、苦しき、あなたは今もうすでに心でご存知のはずです。だからこそ、今世生まれてきて、学びに集ったのです。学びに集い、自分の心を見つめてみよう、自分を変えていこう、お母さんの温もりを心に思い出し出していこう、そうして自分に決意したから、生まれてきたのではないでしょうか。

その原点に立ち返ってください。優しいあなた、温もりのあなた、その心に押し隠したまま、また時を過ごしてしまうのでしょうか。

大変もつたないと思います。せつかくの出会いです。せつかくの学びとの出会いです。どうぞ、もつと真剣に自分を見つめていってください。

こんなチャンスは、もう二度とあなたの前には現れないでしょう。

これからのあなたの転生はとても厳しいものです。二五〇年後の出会いはあるかもしれませんが。しかし、その時、あなたの意識の目覚めがあるかどうか、それは今世のこれからの時にかかっていると思います。

それほど大切な時間なのです。このことは、あなたに限らず、どなたも同じです。学びに集ったということは、そういうことです。

そのチャンスを自ら潰していくということは、どういうことでしょうか。

私は、そのようにお伝えします。

***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、今、自分の心を見つめています。苦しい、苦しい中から生まれてきた私の心を、自分なりに見つめています。しっかりと見つめていこうとしています。

他力の中にある私です。なかなかそこから、自分の心を解き放していくのは難しいです。しかし、自分を救っていくのは自分だという思いがこの心の中から上がってきます。

お母さんに生んでいただきました。そして私は、曲がりなりにも、今ここにこうして、田池留吉に心を合わせよう、しっかりと自分を見つめていこうとする時間が許されています。この時間を大切にしていきたいと思います。

本当は、すべてを投げ捨てて、瞑想、心を見ることをしたいのですが、まだまだ肉に引っ張られます。肉の生活に思いがいきます。

昔からの私の心癖です。やはり、きちんと形を整えて、すべてを整えてという私の思いが心の中にあります。

それでも、今、このように自分を振り返る、見つめるということ、私からすれば、本当に考えてもみなかった静かな、ゆったりとした時間が与えられています。このことを喜んでいきます。

焦らず、たゆまず、ですね。そうですね、焦らず、たゆまず、私は、今の自分を見つめて
いこうとしています。

***さん、そうです。焦らず、たゆまず、です。あなたがどれだけ上を望んでも、焦らず、
たゆまず、です。

上を望む思い、あなたのその思いが、あなたの中にまだしっかりとあります。欲で、他力で、
この学びをつかまえているあなたの思いを、もつと見つめていってください。

肉の向上、あなたはそこに、やはり心が縛られていると思います。

肉の向上、この意味が分かりますか。もちろん、あなたは、その肉を立派にするためにか、
素晴らしくするために、学びをしているわけではありません。しかし、あなたから感じられる
ものは、向上という思いなんです。

その思いが基盤にあつてということ、やはりあなたの基盤は肉ということでしょう。

ただただ自分を見つめていく、自分のエネルギーを見つめていく、それも優しい思いで見
つめていくのです。

優しい思いですよ。お母さんがあなたを生んでくれたときのあの優しさです。あの温もり
です。その優しさ、その温もりで、自分自身を見つめていくんです。厳しい目、しっかりとし

た目、そういうのではなく、優しい目、温もりの目で、自分を見つめてください。

そういうところを、自分の心で学んでいってください。

もちろん、アルバートへの道をしっかりと自分の中で位置付けたならば、つまり、自己確立ができてくれば、肉は、しっかりとってきます。はっきりとしてきます。肉がしっかりと、はっきりとしていなければ、アルバートへの道は歩いていけません。

あなたのすることは、まだまだたくさんあります。

ここまですることはございません。あなたの学びは永遠です。

これからも、心を見ていってください。心を見つめていってください。時間の許す限り、瞑想を続けていってください。

二三一、会員番号1360さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

はい、心を語ることを恐れてきました。自分の中のエネルギーに、私は驚いています。私は、

瞑想をする中で、自分に思いを向けていけばいくほど、本当に愚かな自分を感じています。

私の中にこんなに凄まじいエネルギーがあつたのか、私は、瞑想をするたびに、それを感じています。

こんな私が、今世、生まれてきて学びに集えたこと、本当に奇跡に近いと思います。大変なことだったんですね。

地獄の底の底もいいところでした。私の意識の世界は、そんな世界です。

今、自分を語るとき、何から語っていいのか分らないくらい、たくさんのエネルギーをこの心の中に感じます。

もっと、心を見つめてくれ。もっと、素直に心に向けてくれ。優しい思いを向けてくれ。苦しい、苦しい、怖がらず、怖がらずに、私達に思いを向けてくれ。そんな意識の世界を感じています。

この心の中に、本当にすごいエネルギーを蓄えてきました。

今世、私は生まれてこれでよかったです。今、自分を語りながら、本当にそう思います。こんな私がありました。ああ、すごいです。すごい世界を感じています。心に蓋をして生きてきたことは、どれだけ自分に冷たく愚かなことだったのか、今、心に感じていきます。

***さん、はい、恐怖せずに、どんどんあなたの中を見つめていってください。異語でああなたの心を解きほぐしていってください。優しいあなたが待っていますよ。今、あなたに思いを向けています。

優しいあなたを感じます。はい、凄まじいエネルギーの中にあるけれど、ああしかし、あなたも優しいんです。

あなたも、お母さんに思いを向けてみましょう。

お母さんに思いを向けたとき、あなたの中に、お母さんありがとう、素直にそう言えるあなたがいるではないですか。

そのあなたを信じて、そのあなたに思いを向けながら、苦しくて他力の中に感じながらあなた自身を包んでいってください。

怖がることはありません。すべてはあなたです。あなたなんです。何も怖がることはありません。あなたが恐怖の思いを向ければ、その闇は、さらにあなたの中で大きく訴えてきます。強く、強く訴えてきます。

恐怖せずに、その思いを聞いてあげてください。とても優しい思いですよ。本当に優しい思いなんです。

自らを苦しみの中に突き落としてきたあなたです。そんなあなたを自分の中で優しく迎え

入れて、受け入れて、包んでいく、そんなことができるのは、あなたが、今、肉を持っている時間だけだと私は、お伝えします。

あなたがその肉を離せば、そうですね、あなたの現実は、とても厳しいと思います。おそらく、今のままでは、田池留吉を呼ぶことは難しいでしょう。だからこそ、今、しっかりと母に思いを向け、あなたの中の苦しみを包んでいってください。優しい思いを向けていってあげてください。

できれば、その肉を離した後も、お母さんと呼べるようになっていってください。優しい思いで、あなたを包んでいくことを、学んでいってください。

二二三二、会員番号1922さんの意識

***さん、母親の反省が、着々と進んでいっているとのことですが、それでは、あなたの思いを聞かせてください。

己偉く生きてきました。私は、私を知りません。母に思いを向けると、はい、そんな私を

感じます。くそつたれの思いが出てきます。こんな私です。母に思いを向けるとき、優しい母を感じるのに、私の中は、くそつたれ、くそつたれ、あんな母親大嫌い、憎い、憎い、殺してやりたい、真つ黒な自分の思いを感じます。

こんな私です。しかし、私は、もつと母に思いを向けることをやっていきたい、今、そのようにも思えるんです。

なぜならば、私の中は、とても苦しくて暗くて、どうしようもないからです。母を呼ぶとき、くそつたれが出てくるけれど、私は、そのくそつたれを出すときが、一番自分に素直なときだと思えるんです。

これが嬉しいっていうことかなあ、私は、まだよく分りません。

分らないながら、色々なエネルギーを心に感じます。

心が敏感なのかもしれません。このままいけば、私も狂っていくのでしょうか。何だかそんな気がしてなりません。

お母さんの温もりを心に広げていけば、狂うことはない、どこかでそれを見たようにも思えます。

はい、これから、しっかりと自分を見つめていかなければならない、そんな思いが上がってきます。

***さん、あなたに思いを向けるとき、パワーと出てきます。学びに集う動機が、少々違っている、そのように感じます。

そうですね、あなたが語ったように、あなたは、敏感なのでしょう。だから、日々の生活の中で、色々なエネルギーを感じ、あなたの心は、即座に反応していくと思います。

これから母の反省をして、母を思い、瞑想を続けていくと、さらに心は敏感になってくると思います。

どうぞ、しっかりと自分の心を見つめていってください。

敏感がいいのではありません。敏感な心を持って生まれてきたあなたに必要なのは、母の温もりです。

その母の温もりが、あなたの中でしっかりと感じられなければ、敏感になってくれればくるほど、あなたは、苦しみ続けます。

本当は、真つ黒な自分を感じて嬉しいはずだけでも、そのエネルギーの凄まじさに、あなたは、自分を自分で飲み込んでいくのです。このことが分りますか。

心が敏感なあなたには、母親の反省がとても大切です。

今よりも、もっと真剣に母を思い、反省をしていってください。

母に使ってきた心を、さらけ出していってください。

真っ黒です。凄まじいです。それでも、あなたはあなたをしつかりと見つめて、そして、お母さんに生んでいただいたときの、あのゼロ歳の瞑想を、しつかりとしていってください。

母親の温もり、これからのあなたのキーワードはこれです。母の温もりです。

何かを感じたい、そうパワーを感じたい、そうではありません。

母親の温もりを心にしっかりと持つように、あなたの学びを進めていってください。

あなたの意識です 第3巻

2011年1月30日 第1版第1刷発行

編集 / 発行 U T A 会

印刷 / 製本 モリモト印刷株式会社

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

© 2011 Printed in Japan